



第5回
学生生活実態調査

2011年度

日本赤十字看護大学

第5回学生生活実態調査報告書の刊行にあたって

学生生活委員会 委員長
佐藤 眞

日本赤十字看護大学の「第5回学生生活実態調査報告書」ができあがりました。2011年度に学生生活委員会が実施した調査の結果をまとめたものです。

前回の調査は、武蔵野キャンパスで1年生が授業を受け、2年生以上が広尾で授業を受けるという状況の中で行われ、2007年3月に刊行されました。その後2010年の入学生から1年次も広尾キャンパスで学ぶこととなり、今回の調査時点では1、2年生は最初から広尾で学んでいる学生たち、3、4年生は武蔵野キャンパスでの勉学を経験している学生たちということになります。

今回の調査のひとつの特徴は、大学院生も調査の対象に含めたことだと思います。また日本の経済状況のあまり良くない時期の調査でもありますから、学生たちの生活に社会の状況がどのように影響しているのかということも、気をつけて見ていかなければいけない点であろうと思います。

この調査結果をもとに、学生委員会は学生たちの生活のいろいろな側面に注意をはらいながら、学生たちが少しでも学びやすい、また生活しやすい環境を提供できるようにしていきたいと考えます。

今回の調査のために調査票の検討、調査の実施、さらには報告書のまとめを労をいとわず進めてくださった遠藤公久教授、堀井湖浪講師、宮内清子講師、西田朋子講師に感謝いたします。

3) 加入経験のある学外のサークル・同好会	
4) 課外活動への参加理由	
5) 課外活動の不参加理由	
6) 課外活動における中途退会の理由	
7) 課外教育	
(1)夏期休暇の主な行動	(2)課外教育の経験の有無と受講講座
(3)課外教育プログラムへの希望	
5. 生活時間について29
1) 睡眠時間	
2) 学習時間	
3) 自由時間	
4) 通学時間	
5) 課外活動時間	
6. 健康状態について35
1) 身体面の健康	
2) 食生活について	
3) 精神面の健康	
(1)入学から今までの悩みや不安	(2)大学の学生相談室の利用状況
(3)学生相談室の今後の利用意向	
7. 大学生活全般について43
1) 本学を選択した理由	
2) 入学満足度	
3) 勉強の継続についての意向	
4) 学生生活の充実度	
5) 大学生活の中で大切に思っていること	
6) 大学に対する期待や要望	
8. 卒業後の進路について49
1) 卒業後の進路希望	
2) 就職したい病院	
3) 大学院進学	

目 次

第5回学生生活実態調査報告書刊行にあたって

I 調査の目的と方法	1	
1. 調査の目的		
2. 調査の方法		
1) 調査票		
2) 調査対象		
II 結果と考察	3	
1. 住居について		
1) 住居形態		
2) 下宿の場合の住居状況		
3) アパート・マンションの場合の住居状況		
4) 住居の満足度		
2. 経済面について	7	
1) 1ヶ月の平均収入額		
(1)家族からの援助額	(2)現在受けている奨学金の種類	
(3)アルバイトの収入状況	(4)授業期間中のアルバイト収入状況	
(5)職場からの収入		
2) 1ヶ月の平均総支出額		
(1)平均総支出額	(2)平均食費	(3)自宅外通学生の平均住居費
(4)平均勉学費	(5)平均通学費	(6)平均教養・娯楽費
(7)平均嗜好品費	(8)平均習い事費	(9)1ヶ月の平均通信費
3. アルバイトについて	17	
1) アルバイト実施期間		
2) アルバイトの主な目的		
3) 授業期間中のアルバイト実施状況		
4) 長期休暇中のアルバイト実施状況		
4. 課外活動について	23	
1) 加入している学内・学外のクラブ及び同好会		
2) 加入している学内のサークル・同好会		

I. 調査の目的と方法

1. 調査の目的

本学が1986年に開学して以来、学生生活委員会は学生が正規教育以外の諸活動を通じて、より豊かな人間形成を計るために、学生の生活実態を把握することを目的にした全学部生（編入生を含む）を対象とした調査を実施してきた。本調査は、前回（2006年）から5年間を経た第5回目調査であり、この5年間における学生生活の推移を検討することを目的にした。今回の調査では、①統合後、全学年が130人体制になったこと、②1年生が武蔵野キャンパスから広尾キャンパスに移動してきたこと、③大学院も調査対象にしたことなどが特徴としてあげられる。

2. 調査の方法

1) 調査票

第4回目（2006年）の実態調査において用いられた質問項目を再度吟味し、現在の学生においてもその生活実態を適切に把握できると判断される項目はそのまま温存した。また、現在の学生の生活に合致しない項目は改訂し、新しい項目を追加するなどの検討を行った。その結果、質問は大きく9側面（細かくは72項目、フェースシートも含む）から構成される調査票が作成された。質問内容は概ね以下のように構成されている。

- ①住居（質問1から2）：住居の種類、住居状態と満足度など13項目
- ②経済面（質問3から4）：学費や生活費など14項目
- ③アルバイト（質問5）：アルバイト状況についての7項目
- ④課外活動（質問6）：サークル、課外教育など10項目
- ⑤生活時間（質問7）：睡眠時間、学習時間、通学時間など7項目
- ⑥健康状態（質問8から12）：心身の健康状態、食生活、心理相談室利用状況など9項目
- ⑦大学生生活全般（質問13）：本学選択の理由、学生生活の充実度、本学への希望や要望など6項目
- ⑧卒業後の進路（質問14）：卒業後の進路について3項目
- ⑨その他（フェイスシート）：学年と出身地など3項目

平成23年9月下旬から10月上旬に配布し、10月末までに各学年のレターボックスにて回収した。質問紙は授業を通じて配布した（学部）。大学院生の場合は、各院生の机の上に配布した。

2) 調査対象

調査対象は、本学の学部生1年生から4年生までの591名、大学院（修士課程）1年生から2年生の95名を対象に悉皆調査を実施した。回収率は、表I-1に示したように、1年生で67.6%、2年生で56.7%、3年生で一般学生が45.1%、編入3年生が50.0%、4年生で一般が43.4%で、編入4年生が60.0%であった。大学院の国際保健助産学専攻では44.4%、看護

学専攻では52.5%であった。平均回収率は約53.3%（学部）、49.5%（大学院）、全体で52.8%であった。前回の75.5%（学部）よりもかなり悪くなっている。その理由としては、①回答回収の要請が弱かったこと、②強制力を極力さけるために、授業中の回収を辞め後日回収にしたこと、③学生数の増員によって、なかなか足並みが揃えにくくなってきていることなどがあげられるだろう。また、大学院は今回初めて調査対象としたが、調査の依頼はしたものの、オリエンテーションが弱かったと考えられる。

表 I - 1 学年別からみた調査対象者の配布数、回収数、回収率

	配布数	回収数	回収率
1年	145	98	67.6
2年	141	80	56.7
3年	142	64	45.1
編入3年	8	4	50.0
4年	145	63	43.4
編入4年	10	6	60.0
大学院修士 (国際保健助 産学専攻)	36	16	44.4
大学院修士 (看護学専攻)	59	31	52.5
合計	686	362	52.8

II 結果と考察

1. 住居について

1) 住居形態（質問1）

図1-1、1-2に示すように、回答の得られた359名のうち、実家からの通学者237名（66.0%）、実家以外で暮らす者117名（32.6%）であった。実家以外の内訳は、アパート・マンションが最も多く85名（72.6%）であり、寮の利用は18名（15.4%）であった。

1999年3月をもって廃止となっていた学生寮が日本赤十字武蔵野短期大学との統合によって利用可能になり、武蔵野キャンパスにおいて授業を受ける1年生にとってはキャンパスの敷地内にある学生寮は便利であったが、全学年が広尾キャンパスでの授業を受けることになった2010年から、その利便性はなくなり、寮の利用者が減っているようである。

一方、自宅通学者の割合も確実に増加している。1990年の調査では25%程度、1996年の調査では38%程度、2001年及び2006年では63.5%、今回の調査では66.0%であった。近年の地方都市での看護系大学の増加にともない、自宅から通える範囲での大学選択が可能となったことが影響していると考えられる。

表1-1 現在の住居形態

		実家	実家以外	その他	合計
学部	1年	74	22	2	98
		75.5	22.4	2	100
	2年	58	17	3	78
		74.4	21.8	3.8	100
	3年	43	20	-	63
		68.3	31.7	-	100
	編入3年	4	-	-	4
		100	-	-	100
4年	47	16	-	63	
	74.6	25.4	-	100	
編入4年	3	3	-	6	
	50	50	-	100	
大学院	国際保健	6	10	-	16
	助産学	37.5	62.5	-	100
	看護学	2	29	-	31
合計	237	117	5	359	
	66	32.6	1.4	100	

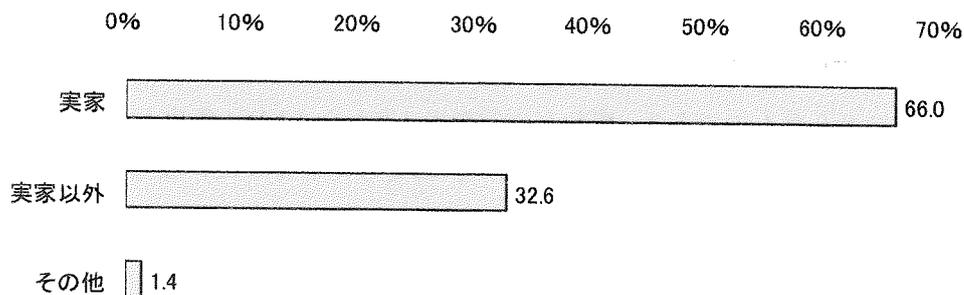


図1-1 現在の住居

表1-2 現在の住居（実家以外）

		下宿	アパート・マンション	さつき寮	自宅(結婚などして)	合計
学部	1年	-	13 59.1	9 40.9	-	22 100.0
	2年	2 11.8	14 82.4	1 5.9	-	17 100.0
	3年	2 10.0	10 50.0	8 40.0	-	20 100.0
	編入3年	-	-	-	-	-
	4年	-	16 100.0	-	-	16 100.0
	編入4年	-	2 66.7	-	1 33.3	3 100.0
	大学院	国際保健 助産学	-	9 90.0	-	1 10.0
看護学		-	21 72.4	-	8 27.6	29 100.0
合計		4 3.4	85 72.6	18 15.4	10 8.5	117 100.0

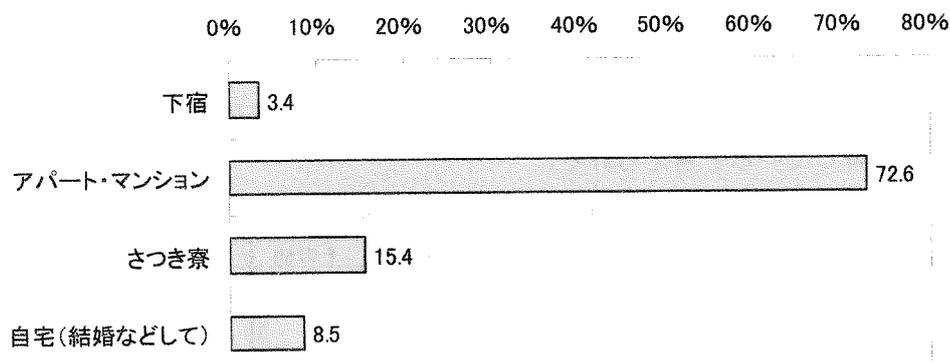


図1-2 現在の住居(実家以外)

2) 下宿の場合の住居状況（質問1-1）

下宿をしている学生は全体からすると少なく、2006年では、12名（4.2%）であったが今回さらに減り4名であった。そのなかで居住する間取りについては、6畳2名であった。食事は、3名が付かないタイプであった。

3) アパート・マンションの場合の住居状況（質問1-2）

アパート・マンションの間取りは、図1-3のとおりである。83名のうち、「1K～1DK」40名（48.2%）で最も多く、「ワンルーム」21名（25.3%）、「2K～2LDK」17名（20.5%）、「3LDK以上」が4名（4.8%）であった。表1-3は、居住するアパート・マンションの間取りを学年別に示したものである。概ねどの学年も1Kから1KDに集中していた。また、どの学年にも3LDK以上が1名ないし2名いるが、おそらくきょうだいなどとの共同生活が考えられる。同居人の有無では、24名（28.6%）同居人がいた。

風呂の有無については、81名（96.4%）が個人用の風呂があった。トイレ及び台所も同様で81名（96.4%）が個人専用であった。

表1-3 アパート・マンションにおける間取り（学年別）

		ワンルーム	1K～1DK	2K～2LDK	3LDK以上	その他	合計
学部	1年	3 27.3	5 45.5	2 18.2	1 9.1	-	11 100.0
	2年	5 35.7	4 28.6	4 28.6	1 7.1	-	14 100.0
	3年	2 20.0	6 60.0	2 20.0	-	-	10 100.0
	編入3年	-	-	-	-	-	-
	4年	2 12.5	11 68.8	2 12.5	1 6.3	-	16 100.0
	編入4年	1 50.0	-	1 50.0	-	-	2 100.0
大学院	国際保健 助産学	5 55.6	2 22.2	2 22.2	-	-	9 100.0
	看護学	3 14.3	12 57.1	4 19.0	1 4.8	1 4.8	21 100.0
	合計	21 25.3	40 48.2	17 20.5	4 4.8	1 1.2	83 100.0

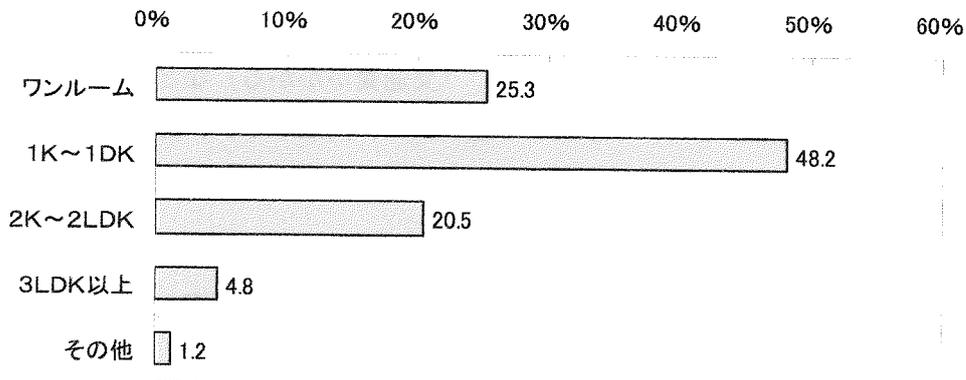


図1-3 アパート・マンションの間取り

4) 住居の満足度（質問2、質問2-1）

現在の住居に関する満足度については図1-4のように、「満足している」221名（61.6%）、「満足していない」29名（24.8%）の順に多く、「どちらともいえない」49名（13.6%）であった。表1-4は学年別に住居の満足度を示したものである。学年があがるほど満足度が高い傾向が窺える。

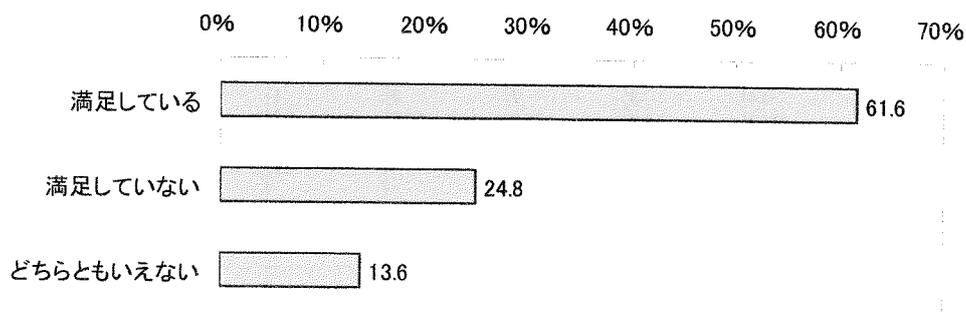


図1-4 住居の満足度

表1-4 住居の満足度（学年別）

		満足している	満足していない	どちらともいえない	合計
学部	1年	53 54.6	27 27.8	17 17.5	97 100.0
	2年	48 60.8	20 25.3	11 13.9	79 100.0
	3年	38 59.4	17 26.6	9 14.1	64 100.0
	編入3年	3 75.0	1 25.0	-	4 100.0
	4年	45 72.6	10 16.1	7 11.3	62 100.0
	編入4年	6 100.0	-	-	6 100.0
	大学院	国際保健 助産学	9 56.3	6 37.5	1 6.3
看護学		19 61.3	8 25.8	4 12.9	31 100.0
合計		221 61.6	89 24.8	49 13.6	359 100.0

満足していない理由として回答の多かった順に挙げると（複数回答）、有効回答数88名のなかで、「学校から遠い」54名（61.4%）、「狭い」37名（42.0%）、「築年数が古い」16名（18.2%）となっていた（図1-5）。その他に挙げられた理由には、「親元を離れたくない」「キッチンが狭く使いづらい」「駅から遠い」「交通費がかかる」などがあつた。また寮生では「食事時間、門限が早い」「学校から遠い割に、門限が早い、課外活動で帰宅が遅くなる」が挙げられた。

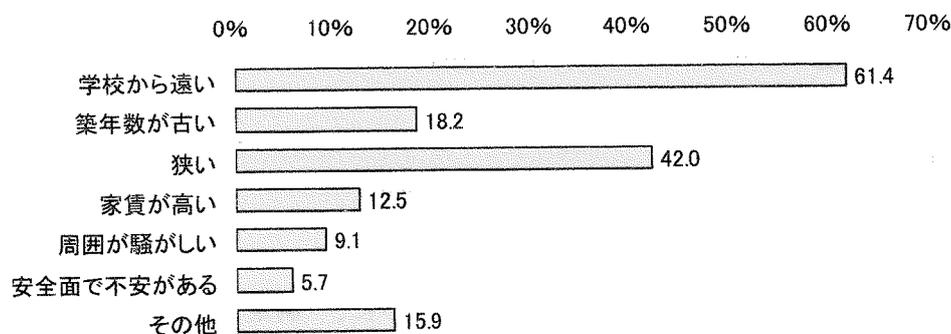


図1-5 住居に満足していない理由（複数回答）

表1-5 住居に満足していない理由（学年別：複数回答）

		学校から遠い	築年数が古い	狭い	家賃が高い	周囲が騒がしい	安全面で不安がある	その他	合計
学部	1年	14 51.9	5 18.5	12 44.4	1 3.7	3 11.1	-	7 25.9	27 100.0
	2年	14 73.7	3 15.8	7 36.8	2 10.5	1 5.3	1 5.3	3 15.8	19 100.0
	3年	13 76.5	3 17.6	5 29.4	-	1 5.9	1 5.9	3 17.6	17 100.0
	編入3年	1 100.0	-	-	-	-	-	-	1 100.0
	4年	7 70.0	2 20.0	7 70.0	-	-	1 10.0	1 10.0	10 100.0
	編入4年	-	-	-	-	-	-	-	-
	大学院	国際保健 助産学	3 50.0	2 33.3	1 16.7	3 50.0	1 16.7	1 16.7	-
看護学		2 25.0	1 12.5	5 62.5	5 62.5	2 25.0	1 12.5	-	8 100.0
合計		54 61.4	16 18.2	37 42.0	11 12.5	8 9.1	5 5.7	14 15.9	88 100.0

2. 経済面について

1) 1ヶ月の平均収入額

(1) 家族からの援助額 (質問3のA)

家族からの生活費としての援助額については、図2-1の通り3万円未満が68.8%と最も多く、次いで3~6万円が19.9%であった。学年別では、表2-1のとおり1年生2年生では3万円未満が75%を超えているが、3年生4年生となると65%を下回っている。

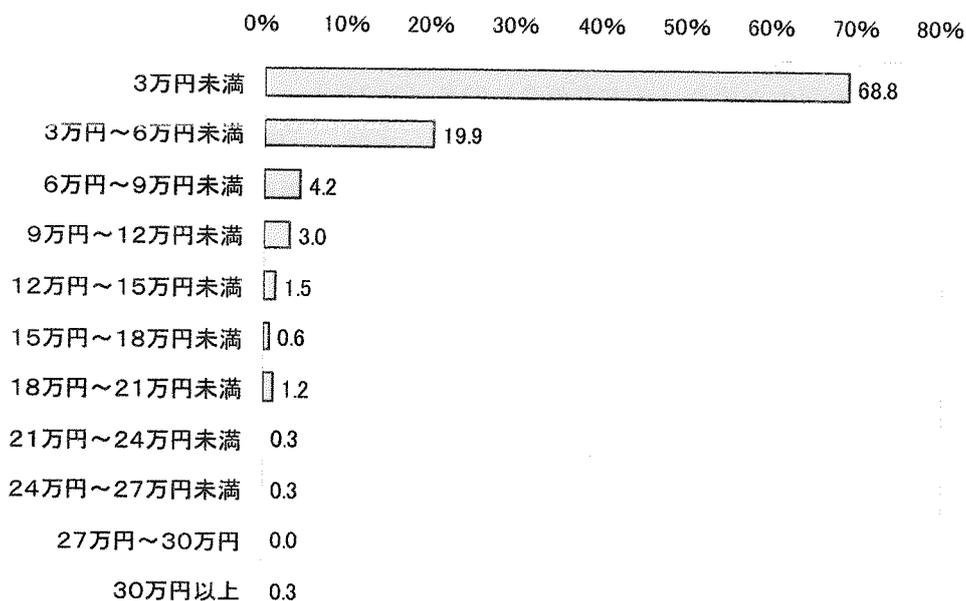


図2-1 家族からの1ヶ月の援助額

表2-1 家族からの援助額 (生活費として)

		3万円未満	3~6万円未満	6~9万円未満	9~12万円未満	12~15万円未満	15~18万円未満	18~21万円未満	21~24万円未満	24~27万円未満	27~30万円	30万円以上	合計
学部	1年	72	17	2	1	1							93
		77.4	18.3	2.2	1.1	1.1	-	-	-	-	-	-	100.0
	2年	56	15	2	1								74
		75.7	20.3	2.7	1.4	-	-	-	-	-	-	-	100.0
	3年	39	12	1	5	1		1	1				60
		65.0	20.0	1.7	8.3	1.7	-	1.7	1.7	-	-	-	100.0
	編入3年	3	1										4
		75.0	25.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0
4年	38	16	5	1	1							61	
	62.3	26.2	8.2	1.6	1.6	-	-	-	-	-	-	100.0	
編入4年	3	1	1									5	
	60.0	20.0	20.0	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	
大学院	国際保健	8	2		1	1		3		1			16
	助産学	50.0	12.5	-	6.3	6.3	-	18.8	-	6.3	-	-	100.0
	看護学	13	3	3	1	1	2					1	24
	54.2	12.5	12.5	4.2	4.2	8.3	-	-	-	-	-	4.2	100.0
合計		232	67	14	10	5	2	4	1	1		1	337
		68.8	19.9	4.2	3.0	1.5	0.6	1.2	0.3	0.3	-	0.3	100.0

(2)現在受けている奨学金の種類（質問3のB）

353名の回答者のうち、何らかの奨学金を受けている者は255名（72.2%）であり、受けていない者98名（27.8%）であった。奨学金受給者割合は、1990年73.5%、1996年76.1%、2001年48.9%と減少し、2006年は57.4%と少し増加し、今回では、さらに増加した。表2-2に学年別の奨学金受給状況を示した。受給率は1年生、2年生、3,4年生の順で高かった。本学では奨学金申請者のほとんど全員がなんらかの形で奨学金を受けている。編入生の受給率が一般学生に比べ低いのは、①申請時の年齢が高い、②すでに社会経験などで学費を確保している、③すでに看護師の資格を持っており収入があるなどが考えられる。受給奨学金の種別についてみると、「日本赤十字社都道府県支部及び赤十字病院関係」92名（26.1%）、「日本学生支援会（日本育英会）92名（26.1%）」「日本赤十字社医療センター」51名（14.4%）であった（表2-2）。その他としては、「伊藤・有馬記念基金奨学金」「日本赤十字社看護師同方会」「東京都の奨学金」「東京都看護師修学資金」等が挙げられていた。

表2-2 学年別奨学金受給状況

		日本赤十字社医療センター	日本赤十字社都道府県支部および赤十字病院	日本学生支援会(日本育英会)	その他	受けていない	合計
学部	1年	-	42	31	6	37	97
			43.3	32.0	6.2	38.1	100.0
	2年	16	46	20	10	10	79
		20.3	58.2	25.3	12.7	12.7	100.0
	3年	18	31	12	5	13	63
		28.6	49.2	19.0	7.9	20.6	100.0
	編入3年	-	-	1	-	2	3
			33.3	-	66.7	100.0	
4年	17	26	14	3	14	63	
	27.0	41.3	22.2	4.8	22.2	100.0	
編入4年	-	-	1	5	1	6	
			16.7	83.3	16.7	100.0	
大学院	国際保健助産学	-	1	6	3	7	16
			6.3	37.5	18.8	43.8	100.0
	看護学	-	1	7	6	14	26
			3.8	26.9	23.1	53.8	100.0
合計		51	147	92	38	98	353
		14.4	41.6	26.1	10.8	27.8	100.0

(3)アルバイトの収入状況（質問3のC）

アルバイトの経験ありは、71.1%であった。2006年の調査では経験ありは93.6%、2001年でも94.1%であり、2006年では71.4%であった。特に1年生では、64.3%と低い。1年生では学生生活に慣れるまで控えていること、奨学金の受給率が高く、アルバイトで補っていたところを奨学金で補えるようになったことが影響していると思われる。さらに全体的にアルバイトが減っているのは、社会的経済状況によって雇用自体が減っていることも学生アルバイトの減少に影響しているであろう。

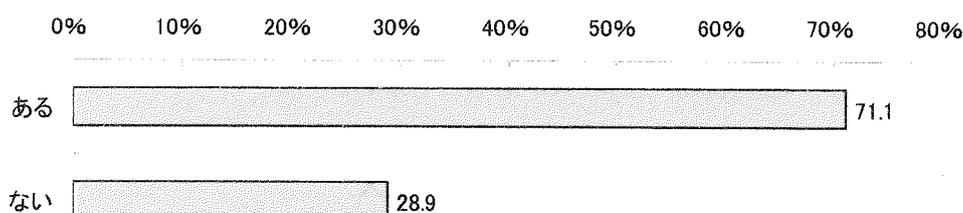


図2-2 アルバイトによる収入

表2-3 アルバイトによる収入（学年別）

		ある	ない	合計
学部	1年	63	35	98
		64.3	35.7	100.0
	2年	68	11	79
		86.1	13.9	100.0
	3年	48	15	63
		76.2	23.8	100.0
	編入3年	4	-	4
100.0		-	100.0	
4年	46	17	63	
	73.0	27.0	100.0	
編入4年	4	2	6	
	66.7	33.3	100.0	
大学院	国際保健	5	11	16
	助産学	31.3	68.8	100.0
	看護学	16	12	28
合計		254	103	357
		71.1	28.9	100.0

(4) 授業期間中のアルバイト収入状況（質問3のD）

授業期間中の1か月のアルバイト収入額は、1年生では3～4万円が31.7%と最も多いが、2年生では4～5万円が19.1%と最も多かった。3年生では4～5万円が23.9%と最も多いが3～4万円も21.7%であった。4年生では3～4万円が21.7%で、次いで2～3万円17.4%であった。授業期間中のアルバイト収入は2年3年生で多くなっている現状であった。

表2-4 授業期間中のアルバイト収入状況（学年別）

		1万円未満	1～2万円未満	2～3万円未満	3～4万円未満	4～5万円未満	5～6万円未満	6～7万円未満	7～8万円未満	8～9万円未満	9～10万円未満	10万円以上	合計
学部	1年	-	3	7	20	12	10	5	2	3	1	-	63
		-	4.8	11.1	31.7	19.0	15.9	7.9	3.2	4.8	1.6	-	100.0
	2年	1	5	6	10	13	8	6	9	4	4	2	68
		1.5	7.4	8.8	14.7	19.1	11.8	8.8	13.2	5.9	5.9	2.9	100.0
	3年	1	1	9	10	11	4	6	2	1	-	1	46
		2.2	2.2	19.6	21.7	23.9	8.7	13.0	4.3	2.2	-	2.2	100.0
	編入3年	-	-	2	-	1	-	1	-	-	-	-	4
-		-	50.0	-	25.0	-	25.0	-	-	-	-	100.0	
4年	-	4	8	10	4	7	5	4	1	2	1	46	
	-	8.7	17.4	21.7	8.7	15.2	10.9	8.7	2.2	4.3	2.2	100.0	
編入4年	1	-	-	-	-	1	-	-	-	1	1	4	
	25.0	-	-	-	-	25.0	-	-	-	25.0	25.0	100.0	
大学院	国際保健	1	3	-	1	-	-	-	-	-	-	5	
	助産学	20.0	-	60.0	-	20.0	-	-	-	-	-	100.0	
	看護学	4	2	1	3	1	2	-	1	-	2	16	
合計		8	15	36	53	42	31	25	17	10	8	7	252
		3.2	6.0	14.3	21.0	16.7	12.3	9.9	6.7	4.0	3.2	2.8	100.0

(5) 職場からの収入（質問3のF）

職場からの収入は主に大学院生を想定した設問であった。看護学専攻の学生には休職中の者が多いのか、約3割弱がこの収入があることがわかった。

表2-5 職場からの収入

		ある	ない	合計
学部	編入3年	-	4 100.0	4 100.0
	編入4年	2 33.3	4 66.7	6 100.0
大学院	国際保健 助産学	1 8.3	11 91.7	19 100.0
	看護学	7 26.9	19 73.1	16 100.0
合計		10 100.0	38 100.0	45 100.0

2) 1ヶ月の平均総支出額

(1) 平均総支出額（質問4のI）

1ヶ月の平均総支出額は、「3～6万円未満」158名（45.7%）が最も多く、「6～9万円未満」66名（19.1%）、「3万円未満」40名（11.6%）であり、最も多い支出額は前回同様であった。大学院生は、個人による差が大きかった（表2-6）。

表2-6 1ヶ月の平均総支出額(学年別)

		3万円未満	3～6万円未満	6～9万円未満	9～12万円未満	12～15万円未満	15～18万円未満	18～21万円未満	21～24万円未満	24～27万円未満	27～30万円未満	30万円以上	合計
学部	1年	16 16.7	46 47.9	19 19.8	6 6.3	7 7.3	-	1 1.0	1 1.0	-	-	-	96 100.0
	2年	7 9.9	41 57.7	11 15.5	9 12.7	1 1.4	1 1.4	1 1.4	-	-	-	-	71 100.0
	3年	4 6.6	33 54.1	14 23.0	4 6.6	-	4 6.6	1 1.6	-	1 1.6	-	-	61 100.0
	編入3年	1 25.0	1 25.0	2 50.0	-	-	-	-	-	-	-	-	4 100.0
	4年	7 11.5	28 45.9	13 21.3	6 9.8	4 6.6	-	2 3.3	1 1.6	-	-	-	61 100.0
	編入4年	1 16.7	1 16.7	-	3 50.0	-	-	-	-	-	-	-	1 16.7
大学院	国際保健 助産学	2 12.5	-	5 31.3	2 12.5	1 6.3	3 18.8	2 12.5	1 6.3	-	-	-	16 100.0
	看護学	2 6.5	8 25.8	2 6.5	4 12.9	7 22.6	2 6.5	2 6.5	2 6.5	-	1 3.2	1 3.2	31 100.0
合計		40 11.6	158 45.7	66 19.1	34 9.8	20 5.8	10 2.9	9 2.6	5 1.4	1 0.3	1 0.3	2 0.6	346 100.0

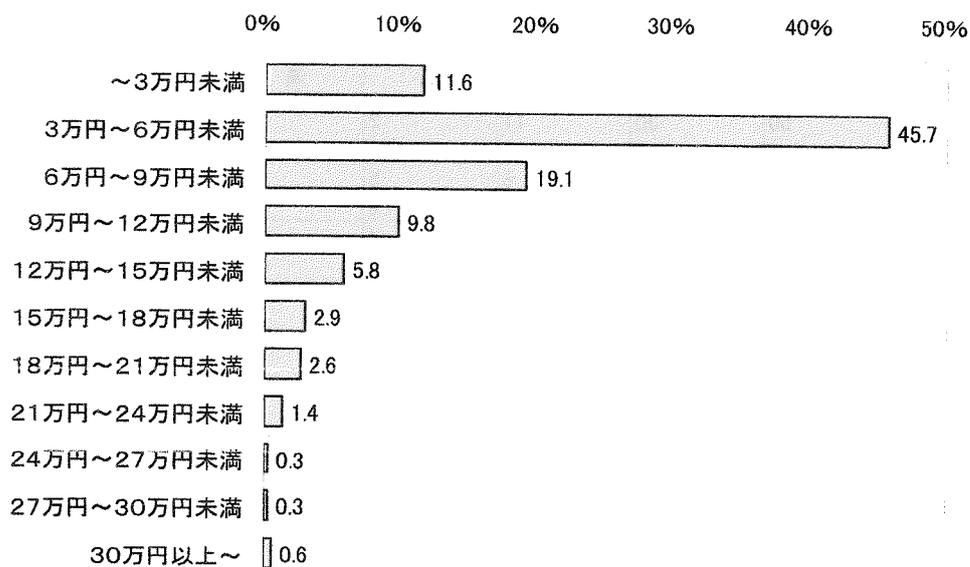


図2-3 1ヶ月の平均総支出額

(2)平均食費（質問4のA）

（自宅通学生の場合には外食費）は、「1万円未満」が133名（37.3%）最も多く、前回調査の76名（26.1%）を上回った。次いで、「1~2万円未満」115名（32.2%）、「2~3万円未満」63名（17.6%）の順に多かった。

大学院生に限ってみると、「2~3万円未満」の占める割合が最も多いが、個人差の大きい分布である。（表2-7）

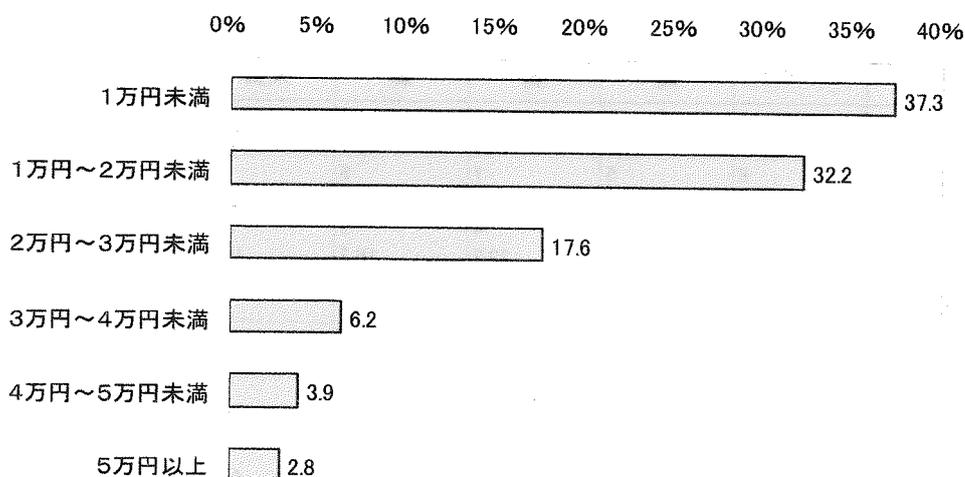


図2-4 1ヶ月の平均食費

表2-7 1ヶ月の平均食費（学年別）

		1万円未満	1～2万円未 満	2～3万円未 満	3～4万円未 満	4～5万円未 満	5万円以上	合計
学部	1年	50 51.0	30 30.6	11 11.2	2 2.0	3 3.1	2 2.0	98 100.0
	2年	33 41.8	30 38.0	6 7.6	6 7.6	3 3.8	1 1.3	79 100.0
	3年	24 39.3	22 36.1	9 14.8	4 6.6	1 1.6	1 1.6	61 100.0
	編入3年	3 75.0	-	-	-	1 25.0	-	4 100.0
	4年	16 25.8	20 32.3	16 25.8	4 6.5	3 4.8	3 4.8	62 100.0
	編入4年	-	3 50.0	2 33.3	1 16.7	-	-	6 100.0
	大学院	国際保健 助産学	3 18.8	2 12.5	6 37.5	2 12.5	2 12.5	1 6.3
看護学		4 12.9	8 25.8	13 41.9	3 9.7	1 3.2	2 6.5	31 100.0
合計		133 37.3	115 32.2	63 17.6	22 6.2	14 3.9	10 2.8	357 100.0

(3) 自宅外通学生の平均住居費（質問4のB）

回答の得られた自宅学通学者115名（117名中2名不明）の家賃、光熱水道費を含む1ヶ月の平均住居費は表2-8のとおりである。「3万円未満」30名（26.1%）、「7～9万円未満」24名（20.9%）の順に多かった。「3万円未満」が多かったのは、そのなかに学生寮入居者が含まれているためであると考えられる。

表2-8 1ヶ月の平均住宅費（学年別）

		3万円未満	3～5万円未 満	5～7万円未 満	7～9万円未 満	9～11万円 未満	11万円以上	合計
学部	1年	6 28.6	5 23.8	1 4.8	6 28.6	1 4.8	2 9.5	21 100
	2年	6 28.6	5 23.8	1 4.8	6 28.6	1 4.8	6 28.6	22 100
	3年	5 27.8	3 16.7	4 22.2	3 16.7	2 11.1	1 5.6	18 100
	編入3年	-	-	-	-	-	-	-
	4年	2 11.8	1 5.9	6 35.3	4 23.5	2 11.8	2 11.8	17 100
	編入4年	2 50	1 25	-	1 25	-	-	4 100
	大学院	国際保健 助産学	1 11.1	-	1 11.1	-	4 44.4	3 33.3
看護学		6 25	1 4.2	2 8.3	5 20.8	7 29.2	3 12.5	24 100
合計		30 26.1	13 11.3	18 15.7	24 20.9	18 15.7	12 10.4	115 100

(4)平均勉学費（質問4のC）

学納金を除いた書籍、文具、コピー等に要する1ヶ月の平均勉学費は、回答数の多かった順に「5千円未満」229名（64.3%）、「5千～1万円未満」94名（26.4%）で9割以上が1万円未満であった（表2-9、図2-5）。

大学院の学生は、「5千～1万円未満」に占める割合が半数程度で最も多く、学部生が最も多く占める「5千円未満」と比較してやや多い傾向であった。

表2-9 1ヶ月の平均勉学費（学年別）

		5千円未満	5千円～1万円未満	1～1.5万円未満	1.5～2万円未満	2万円以上	合計
学部	1年	81	13	2		1	97
		83.5	13.4	2.1	-	1.0	100.0
	2年	62	12	3		1	78
		79.5	15.4	3.8	-	1.3	100.0
	3年	40	19	1	1	1	62
		64.5	30.6	1.6	1.6	1.6	100.0
	編入3年	2	2				4
	50.0	50.0	-	-	-	100.0	
	4年	35	21	5	1		62
		56.5	33.9	8.1	1.6	-	100.0
	編入4年	1	3	2			6
		16.7	50.0	33.3	-	-	100.0
大学院	国際保健 助産学	2	7	3	2	2	16
		12.5	43.8	18.8	12.5	12.5	100.0
	看護学	6	17	4	3	1	31
		19.4	54.8	12.9	9.7	3.2	100.0
合計		229	94	20	7	6	356
		64.3	26.4	5.6	2.0	1.7	100.0

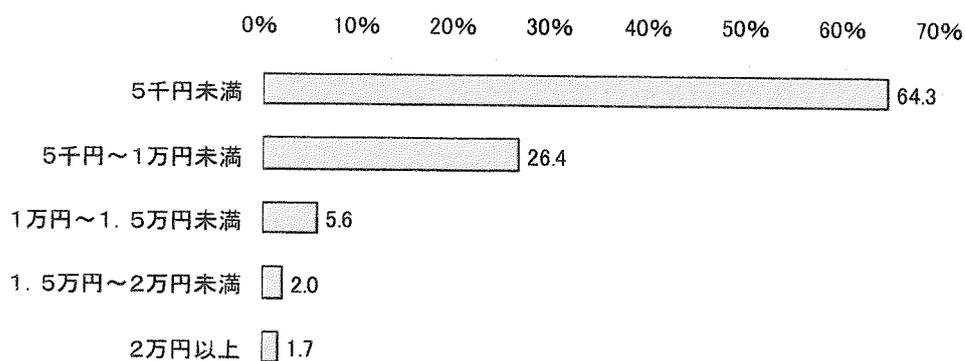


図2-5 1ヶ月の勉学費

(5)平均通学費（質問4のD）

1ヶ月の平均通学費は、「5千～1万円未満」99名（27.8%）、「1～1万5千円未満」73名（20.5%）、「5千円未満」69名（19.4%）の順に多く、この順は前回調査と変わりない（表2-10）。2万円以上かかる学生は、自宅からの通学であることも考えられる。

表2-10 1ヶ月の平均通学費（学年別）

		0円	1～5千円未 満	5千円～1万 円未満	1～1.5万 円未満	1.5～2万 円未満	2万円以上	合計
学部	1年	6 6.2	16 16.5	22 22.7	25 25.8	16 16.5	12 12.4	97 100.0
	2年	4 5.3	11 14.5	26 34.2	16 21.1	7 9.2	12 15.8	76 100.0
	3年	3 4.7	15 23.4	17 26.6	10 15.6	12 18.8	7 10.9	64 100.0
	編入3年	-	-	25.0	-	25.0	50.0	100.0
	4年	1 1.6	15 24.2	17 27.4	14 22.6	7 11.3	8 12.9	62 100.0
	編入4年	-	33.3	33.3	33.3	-	-	100.0
大学院	国際保健 助産学	5 31.3	2 12.5	2 12.5	4 25.0	-	3 18.8	16 100.0
	看護学	3 9.7	8 25.8	12 38.7	2 6.5	3 9.7	3 9.7	31 100.0
合計		22 6.2	69 19.4	99 27.8	73 20.5	46 12.9	47 13.2	356 100.0

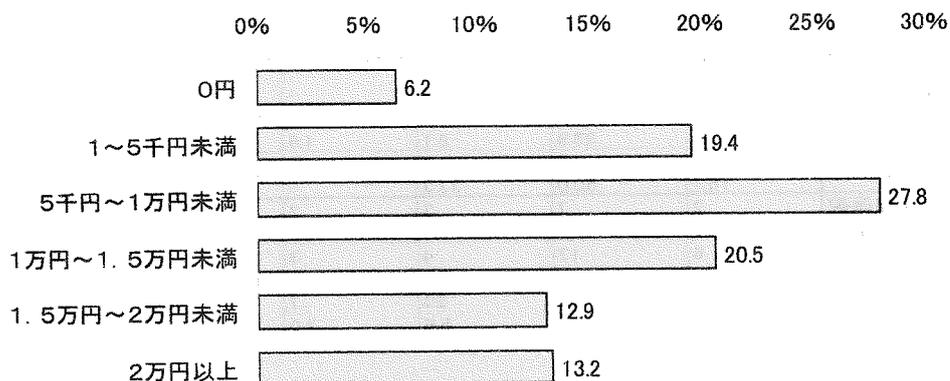


図2-6 1ヶ月の平均通学費

(6)平均教養・娯楽費（質問4のE）

CD、DVD、本等を含む1ヶ月の平均教養・娯楽費の平均金額は、回答数の多かった順に、「5千円未満」175名（49.3%）、「5千～1万円未満」98名（27.6%）、「1～1万5千円未満」43名（12.1%）となっていたが、個人差もみられる項目であった（表2-11）。

表2-11 1ヶ月の平均娯楽・嗜好品費（学年別）

		5千円未満	5千円～1万 円未満	1～1.5万 円未満	1.5～2万 円未満	2万円以上	合計
学部	1年	64 66.0	16 16.5	8 8.2	3 3.1	6 6.2	97 100.0
	2年	30 39.0	27 35.1	11 14.3	3 3.9	6 7.8	77 100.0
	3年	28 45.2	18 29.0	11 17.7	3 4.8	2 3.2	62 100.0
	編入3年	1 25.0	1 25.0	1 25.0	-	1 25.0	4 100.0
	4年	28 45.2	16 25.8	8 12.9	3 4.8	7 11.3	62 100.0
	編入4年	1 16.7	2 33.3	1 16.7	1 16.7	1 16.7	6 100.0
大学院	国際保健 助産学	7 43.8	7 43.8	-	-	2 12.5	16 100.0
	看護学	16 51.6	11 35.5	3 9.7	1 3.2	-	31 100.0
合計		175 49.3	98 27.6	43 12.1	14 3.9	25 7.0	355 100.0

(7)平均嗜好品費（質問4のF）

煙草、酒、レジャー等を含む、1ヶ月の平均嗜好品費は、「5千円未満」が186名（52.8%）と最も多く、ついで「5千円～1万円未満」が80名（22.7%）、「1～1万5千円未満」47名（13.4%）であった。前回調査では、「1～1万5千円未満」が86名（29.6%）と最も多く、「5千円未満」は15%にも満たないことから、節約傾向が窺える（表2-12）。大学院生も「5千円未満」が割合としては多いものの、個人差がみられた。

表2-12 1ヶ月の平均嗜好品費

		5千円未満	5千円～1万円未満	1～1.5万円未満	1.5～2万円未満	2万円以上	合計
学部	1年	63 64.9	17 17.5	7 7.2	7 7.2	3 3.1	97 100.0
	2年	42 56.0	18 24.0	6 8.0	6 8.0	3 4.0	75 100.0
	3年	30 47.6	14 22.2	13 20.6	1 1.6	5 7.9	63 100.0
	編入3年	2 50.0	1 25.0	-	1 25.0	-	4 100.0
	4年	30 50.0	12 20.0	10 16.7	5 8.3	3 5.0	60 100.0
	編入4年	-	2 33.3	3 50.0	1 16.7	-	6 100.0
	大学院	国際保健 助産学	5 31.3	5 31.3	3 18.8	1 6.3	2 12.5
看護学		14 45.2	11 35.5	5 16.1	-	1 3.2	31 100.0
合計		186 52.8	80 22.7	47 13.4	22 6.3	17 4.8	352 100.0

(8)平均習い事費（質問4のG）

1カ月の習い事に要する平均費用は、「5千円未満」305名（88.7%）が最も多かった。

表2-13 1ヶ月の平均習い事費

		5千円未満	5千円～1万円未満	1～1.5万円未満	1.5～2万円未満	2万円以上	合計
学部	1年	86 90.5	5 5.3	3 3.2	-	1 1.1	95 100.0
	2年	65 91.5	2 2.8	3 4.2	1 1.4	-	71 100.0
	3年	53 85.5	4 6.5	3 4.8	2 3.2	-	62 100.0
	編入3年	4 100.0	-	-	-	-	4 100.0
	4年	53 86.9	6 9.8	2 3.3	-	-	61 100.0
	編入4年	5 83.3	-	-	1 16.7	-	6 100.0
	大学院	国際保健 助産学	15 93.8	1 6.3	-	-	-
看護学		24 82.8	3 10.3	1 3.4	1 3.4	-	29 100.0
合計		305 88.7	21 6.1	12 3.5	5 1.5	1 0.3	344 100.0

(9) 1ヶ月の平均通信費（質問4のH）

携帯電話及びインターネット契約・接続料等を含む1ヶ月の平均通信費の平均額は、表2-9に示した。「5千～1万円未満」が173名（49.3%）と最も多く、「1～1万5千円未満」70名（19.9%）の順となっていた。平均通信費は、前回の調査結果とほぼ同傾向であったが、勉学費や教養・娯楽費と比較すると、通信費が占める割合は大きい。

表2-14 1ヶ月の平均通信費（学年別）

		1千円未満	1千円～ 5千円未満	5千円～ 1万円未満	1～1.5万 円未満	1.5～2万 円未満	2～2.5万 円未満	2.5～3万 円未満	合計
学部	1年	13 13.4	9 9.3	50 51.5	18 18.6	6 6.2	1 1.0	-	97 100.0
	2年	5 6.8	12 16.4	39 53.4	14 19.2	3 4.1	-	-	73 100.0
	3年	7 11.3	7 11.3	27 43.5	16 25.8	4 6.5	1 1.6	-	62 100.0
	編入3年	-	1 25.0	-	3 75.0	-	-	-	4 100.0
	4年	5 8.1	9 14.5	37 59.7	8 12.9	3 4.8	-	-	62 100.0
	編入4年	1 16.7	-	2 33.3	2 33.3	1 16.7	-	-	6 100.0
	大学院	国際保健 助産学	2 12.5	1 6.3	5 31.3	2 12.5	6 37.5	-	-
看護学		1 3.2	6 19.4	13 41.9	7 22.6	3 9.7	1 3.2	-	31 100.0
合計		34 9.7	45 12.8	173 49.3	70 19.9	26 7.4	3 0.9	-	351 100.0

3. アルバイトについて

1) アルバイト実施期間（質問5のA）

大学入学以来、いつアルバイトを行っていたかを表3-1に示した。「長期休暇中及び授業期間いつも」121名(48.6%)が最も多く、「授業期間中いつも」26名(15.6%)を合わせると学生の半数以上が年間を通じてアルバイトに従事していることがわかる。また前回同様、実習期間中であってもアルバイトを行っている学生の存在が示され(11.2%)、学業及び健康面への影響も懸念される。

表3-1 アルバイト実施期間（学年別）

		長期休暇のみ	授業期間中ときどき	授業期間いつも	授業、実習期間いつも	長期休暇中及び授業期間いつも	その他	合計
学部	1年	—	13 21.0	10 16.1	2 3.2	32 51.6	5 8.1	62 100.0
	2年	—	13 20.0	10 15.4	3 4.6	37 56.9	2 3.1	65 100.0
	3年	2 4.2	10 20.8	4 8.3	11 22.9	20 41.7	1 2.1	48 100.0
	編入3年	—	3 75.0	—	—	1 25.0	—	4 100.0
	4年	—	6 13.3	1 2.2	10 22.2	27 60.0	1 2.2	45 100.0
	編入4年	1 25.0	1 25.0	1 25.0	—	1 25.0	—	4 100.0
	大学院	国際保健 助産学	2 40.0	2 40.0	—	—	1 20.0	—
看護学		2 12.5	7 43.8	—	2 12.5	2 12.5	3 18.8	16 100.0
合計		7 2.8	55 22.1	26 10.4	28 11.2	121 48.6	12 4.8	249 100.0

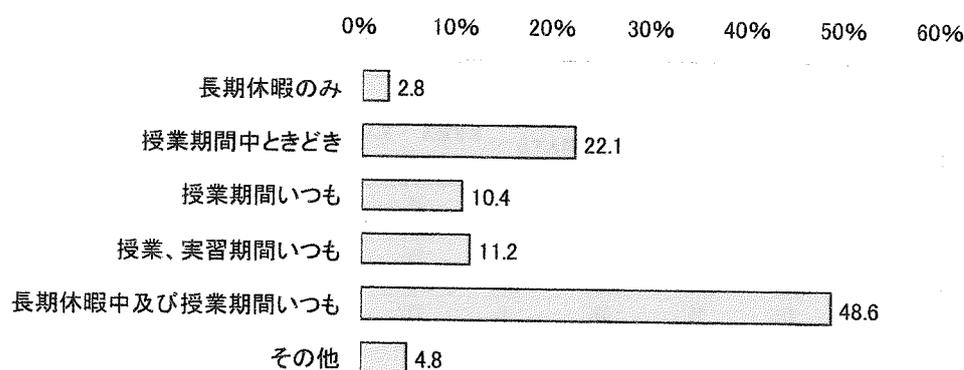


図3-1 アルバイト実施期間

2) アルバイトの主な目的 (質問5のB)

図3-1に挙げたアルバイトの主な目的の傾向としては、必ずしも経済的な必要に迫られたものでないような「娯楽・嗜好品費を得る」(74.9%)や「社会勉強」(44.6%)があり、前回調査と同様であった。一方、「生活費を得る」(55.0%)や「学費及び勉学費を得る」(25.5%)目的である場合もみられた。

学年による大きな違いはみられなかったが、大学院生の場合は「生活費を得る」や「学費及び勉学費を得る」が主たる目的(6割以上)であった(表3-2)。

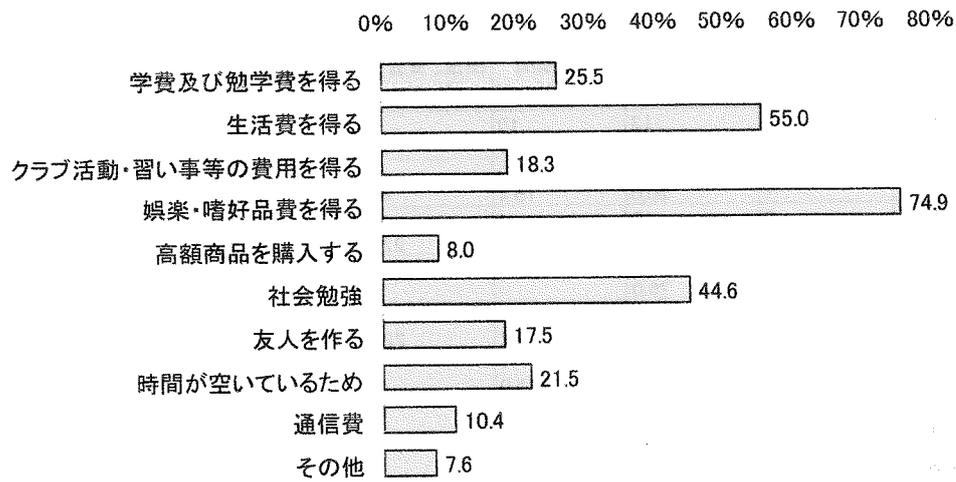


図3-2 アルバイトの目的

表3-2 アルバイトの目的 (学年別)

		学費及び勉学費を得る	生活費を得る	クラブ活動・習い事等の費用を得る	娯楽・嗜好品費を得る	高額商品を購入する	社会勉強	友人を作る	時間が空いているため	通信費	その他	合計
学部	1年	15	27	10	47	4	34	8	17	5	5	61
		24.6	44.3	16.4	77.0	6.6	55.7	13.1	27.9	8.2	8.2	100.0
	2年	13	37	14	50	4	25	10	16	4	8	67
		19.4	55.2	20.9	74.6	6.0	37.3	14.9	23.9	6.0	11.9	100.0
	3年	13	27	15	39	4	23	13	11	7	-	48
		27.1	56.3	31.3	81.3	8.3	47.9	27.1	22.9	14.6	-	100.0
	編入3年	1	2	-	2	-	1	-	-	-	1	4
	25.0	50.0	-	50.0	-	25.0	-	-	-	25.0	100.0	
4年	6	27	7	42	8	21	12	9	7	2	46	
	13.0	58.7	15.2	91.3	17.4	45.7	26.1	19.6	15.2	4.3	100.0	
編入4年	2	3	-	4	-	3	1	1	1	1	4	
	50.0	75.0	-	100.0	-	75.0	25.0	25.0	25.0	25.0	100.0	
大学院	国際保健	3	5	-	2	-	-	-	-	1	1	5
	助産学	60.0	100.0	-	40.0	-	-	-	-	20.0	20.0	100.0
	看護学	11	10	-	2	-	5	-	-	1	1	16
	68.8	62.5	-	12.5	-	31.3	-	-	6.3	6.3	100.0	
合計	64	138	46	188	20	112	44	54	26	19	251	
	25.5	55.0	18.3	74.9	8.0	44.6	17.5	21.5	10.4	7.6	100.0	

3) 授業期間中のアルバイト実施状況（質問5のC、D、E、F）

授業期間中にアルバイトを行った経験のある学生のうち、1週間の平均アルバイト日数については表3-3に示した。最も多かったのが前回調査同様「2～3日」157名（64.3%）であった。大学院生では「1日」が最も多く（7～8割）、学部生との違いがみられた。

表3-3 1週間の平均アルバイト日数（学年別）

		1日	2～3日	4～5日	6～7日	合計
学部	1年	8 13.1	40 65.6	13 21.3	-	61 100.0
	2年	4 6.1	45 68.2	15 22.7	2 3.0	66 100.0
	3年	7 14.9	33 70.2	5 10.6	2 4.3	47 100.0
	編入3年	4 100.0	-	-	-	4 100.0
	4年	2 4.3	33 71.7	11 23.9	-	46 100.0
	編入4年	-	3 100.0	-	-	3 100.0
	大学院	国際保健 助産学	3 75.0	1 25.0	-	-
看護学		11 84.6	2 15.4	-	-	13 100.0
合計		39 16.0	157 64.3	44 18.0	4 1.6	244 100.0

1日の平均アルバイト時間は図3-3のとおりである、最も多いのは「4～5時間」68名（27.5%）、ついで「6時間以上」58名（23.5%）、「5～6時間」59名（23.9%）であり、7割以上の学生が、授業期間中に4時間以上アルバイトに従事していることがわかる。編入生や大学院生はアルバイトの日数は少ないが、従事する時間が長い傾向にあった。

また1時間あたりの平均アルバイト賃金は「800～1000円未満」が136名（55.3%）と最も多く、次いで「1000～1200円未満」という傾向は前回調査と同様である。編入生や大学院生のアルバイト賃金は個人差が大きく、また全体的に高い傾向が窺える（表3-5）。これは、表3-6に示すように、すでに看護職の免許を取得しているため医療職のアルバイトに従事していることが理由であると考えられる。

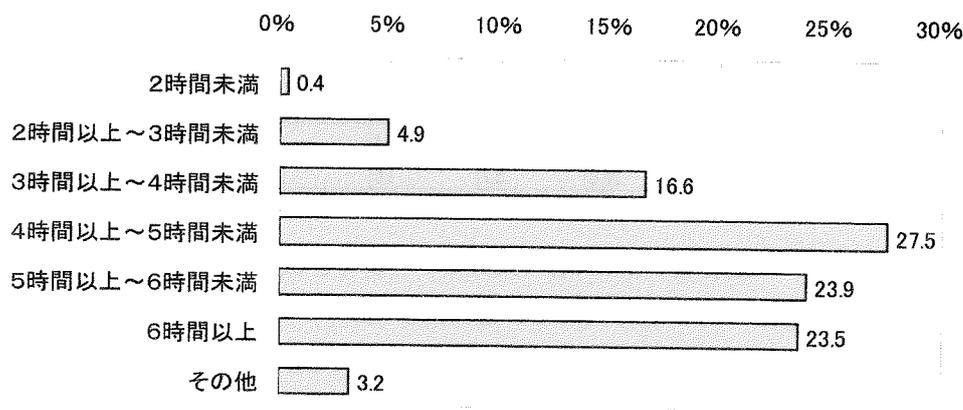


図3-3 1回の平均アルバイト時間

表3-4 1回の平均アルバイト時間（学年別）

		2時間未満	2時間以上 ～3時間 未満	3時間以上 ～4時間 未満	4時間以上 ～5時間 未満	5時間以上 ～6時間 未満	6時間以上	その他	合計
学部	1年	-	4 6.3	18 28.6	15 23.8	18 28.6	7 11.1	1 1.6	63 100.0
	2年	1 1.5	5 7.5	11 16.4	16 23.9	16 23.9	17 25.4	1 1.5	67 100.0
	3年	-	1 2.1	4 8.5	20 42.6	10 21.3	11 23.4	1 2.1	47 100.0
	編入3年	-	1 25.0	-	-	-	2 50.0	1 25.0	4 100.0
	4年	-	1 2.2	8 17.4	16 34.8	13 28.3	8 17.4	-	46 100.0
	編入4年	-	-	-	-	-	2 66.7	1 33.3	3 100.0
大学院	国際保健 助産学	-	-	-	-	-	4 100.0	-	4 100.0
	看護学	-	-	-	1 7.7	2 15.4	7 53.8	3 23.1	13 100.0
合計		1 0.4	12 4.9	41 16.6	68 27.5	59 23.9	58 23.5	8 3.2	247 100.0

表3-5 1時間あたりの平均アルバイト賃金（学年別）

		800円未満	800～999 円	1000～ 1199円	1200～ 1399円	1400～ 1599円	1600～ 1799円	1800～ 1999円	2000円～	合計
学部	1年	2 3.2	40 63.5	14 22.2	6 9.5	1 1.6	-	-	-	63 100.0
	2年	-	32 47.8	27 40.3	4 6.0	2 3.0	1 1.5	-	1 1.5	67 100.0
	3年	-	34 73.9	7 15.2	2 4.3	-	-	-	3 6.5	46 100.0
	編入3年	-	1 25.0	-	-	-	1 25.0	1 25.0	1 25.0	4 100.0
	4年	1 2.2	28 60.9	15 32.6	1 2.2	-	-	-	1 2.2	46 100.0
	編入4年	-	1 33.3	-	-	-	-	1 33.3	1 33.3	3 100.0
大学院	国際保健 助産学	-	-	1 25.0	-	-	-	-	3 75.0	4 100.0
	看護学	-	-	2 15.4	1 7.7	1 7.7	2 15.4	4 30.8	3 23.1	13 100.0
合計		3 1.2	136 55.3	66 26.8	14 5.7	4 1.6	4 1.6	6 2.4	13 5.3	246 100.0

アルバイトの職種は、「接客業」が144名（58.8%）と多く、次いで「販売業」70名（28.6%）と、上位2業種で全体の約9割を占めている（図3-3）。「医療職」35名（14.3%）、「家庭教師・塾講師」31名（12.7%）は、前回調査とほぼ同じ割合であるが、既に看護師等の免許を取得している編入生や大学院生のほとんどは医療職のアルバイトに従事している（表3-6）。

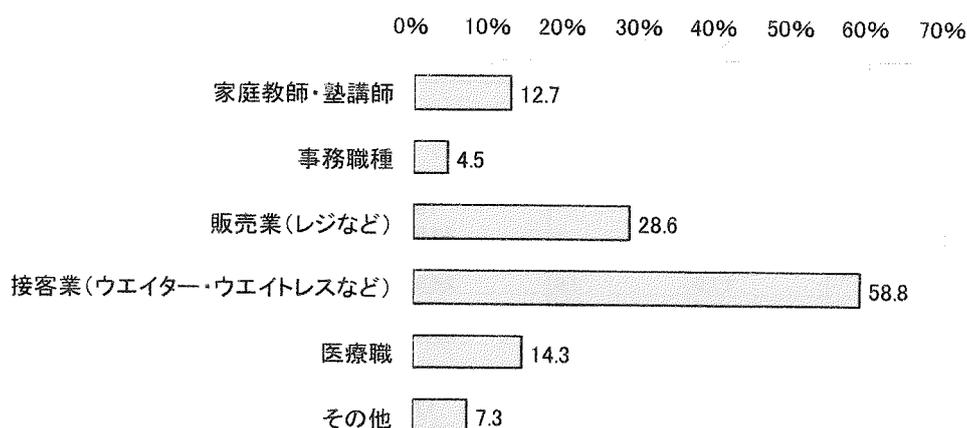


図3-4 アルバイト職種

表3-6 アルバイト職種 (学年別)

		家庭教師・塾講師	事務職種	販売業 (レジなど)	接客業 (ウエイター・ウエイトレス など)	医療職	その他	合計
学部	1年	10 15.9	-	21 33.3	33 52.4	3 4.8	4 6.3	63 100.0
	2年	13 19.4	3 4.5	18 26.9	43 64.2	4 6.0	7 10.4	67 100.0
	3年	4 8.7	4 8.7	14 30.4	29 63.0	7 15.2	2 4.3	46 100.0
	編入3年	-	-	-	1 25.0	4 100.0	-	4 100.0
	4年	3 6.7	3 6.7	17 37.8	35 77.8	2 4.4	3 6.7	45 100.0
	編入4年	-	-	-	2 66.7	2 66.7	-	3 100.0
	大学院	国際保健 助産学	-	-	-	1 25.0	3 75.0	-
	看護学	1 7.7	1 7.7	-	-	10 76.9	2 15.4	13 100.0
合計		31 12.7	11 4.5	70 28.6	144 58.8	35 14.3	18 7.3	245 100.0

4) 長期休暇中のアルバイト実施状況 (質問5のG)

長期休暇中アルバイトに従事した学生数は213名であった。表3-7に示したように、「接客業」117名(60.3%)、「販売業」44名(22.7%)の順に多くなっている。また、「看護師・助産師・看護助手・介護ヘルパー」36名(18.6%)と「家庭教師・塾講師」32名(16.5%)が、表3-7に挙げた「授業期間中のアルバイト職種」とほぼ同数となっているが、これは、授業期間から継続して行っている学生が多いためであると考えられる。

表3-7 長期休暇中のアルバイト状況（職種：学年別）

		家庭教師・塾 講師	事務職種	販売業 (レジなど)	接客業 (ウエイター・ ウエイトレス など)	医療職	その他	合計
学部	1年	9 16.1	-	19 33.9	33 58.9	1 1.8	4 7.1	56 100.0
	2年	10 17.9	2 3.6	15 26.8	37 66.1	4 7.1	8 14.3	56 100.0
	3年	5 13.2	2 5.3	14 36.8	26 68.4	7 18.4	2 5.3	38 100.0
	編入3年	-	-	-	1 33.3	2 66.7	-	3 100.0
	4年	3 7.0	3 7.0	17 39.5	34 79.1	2 4.7	4 9.3	43 100.0
	編入4年	-	1 33.3	-	2 66.7	1 33.3	-	3 100.0
	大学院	国際保健 助産学	-	-	-	1 20.0	4 80.0	-
看護学		1 11.1	1 11.1	-	-	8 88.9	-	9 100.0
合計		28 13.1	9 4.2	65 30.5	134 62.9	29 13.6	18 8.5	213 100.0

4. 課外活動について

1) 加入している学内・学外のクラブ及び同好会（質問6）

「加入し活動している」153名（43.2%）が最も多く、前回調査同様だった。また「最初から加入していない」131名（37.0%）も同様の傾向を示している（表4-1）。そのような中、4年生は、「以前は加入していたがやめた」者や「加入のみで、活動していない」者と「加入し活動している」者に大きな開きがないことから、最終学年になり卒業研究や実習等で多忙のため、活動が継続しにくくなったことも考えられる。

表4-1 加盟している学内・学外のクラブ及び同好会（学年別）

		加入し、活動している	加入のみで、活動していない	以前加入していたがやめた	最初から加入していない	合計
学部	1年	62 63.3	12 12.2	1 1.0	23 23.5	98 100.0
	2年	44 57.1	8 10.4	5 6.5	20 26.0	77 100.0
	3年	30 48.4	3 4.8	10 16.1	19 30.6	62 100.0
	編入3年	-	-	-	4 100.0	4 100.0
	4年	13 21.3	10 16.4	18 29.5	20 32.8	61 100.0
	編入4年	-	-	-	6 100.0	6 100.0
	大学院	国際保健 助産学	3 18.8	-	1 6.3	12 75.0
	看護学	1 3.3	-	2 6.7	27 90.0	30 100.0
合計		153 43.2	33 9.3	37 10.5	131 37.0	354 100.0

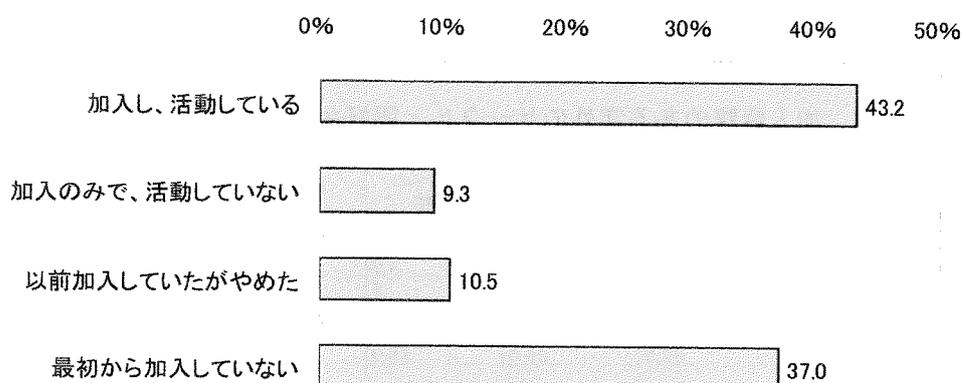


図4-1 課外活動の参加状況

2) 加入している学内のサークル・同好会（質問6-1のA）

学内のサークル・同好会は、EFCボランティアサークル52名（30.6%）、災害救護ボランティアサークルSKV 46名（27.1%）が、加入している割合が3割前後であった（表4-2）。両者ともにボランティアを主とした活動を行っており、学生のうちからボランティアに関心を持ち、それをサークル・同好会活動として取り組んでいる様子が窺える。

表4-2 加入している学内のサークル・同好会

		音楽サークル	手話サークル はんず's	茶道部	NACEF	災害救護ボランティア サークル SKV	EFCボラン ティアサーク ル	Hinaharap	Cross Ring Circulation	総合運動 サークル	日赤様式テ ニス部	日赤ダンス サークル ROUGE	フットサル サークル	総合趣味 サークル	HEART	合計	
学部	1年	3 5.3	6 10.5	1 1.8	5 8.8	9 15.8	23 40.4	8 14.0	-	11 19.3	8 14.0	-	8 14.0	-	3 5.3	57 100.0	
	2年	4 8.3	5 10.4	-	4 8.3	16 33.3	15 31.3	9 18.8	-	6 12.5	3 6.3	2 4.2	7 14.6	1 2.1	-	48 100.0	
	3年	6 17.1	5 14.3	4 11.4	3 8.6	15 42.9	4 11.4	2 5.7	1 2.9	7 20.0	1 2.9	1 2.9	3 8.6	-	-	35 100.0	
	編入3年	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	4年	3 10.7	9 32.1	1 3.6	4 14.3	6 21.4	10 35.7	1 3.6	1 3.6	2 7.1	4 14.3	1 3.6	1 3.6	-	-	28 100.0	
	編入4年	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	大学院	国際保健 助産学	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	看護学	1 50.0	-	-	-	-	-	-	-	-	1 50.0	-	-	-	-	2 100.0	
合計		17 10.0	25 14.7	6 3.5	16 9.4	46 27.1	52 30.6	20 11.8	2 1.2	26 15.3	17 10.0	4 2.4	19 11.2	1 0.6	3 1.8	170 100.0	

3) 加入経験のある学外のサークル・同好会（質問6-1のB）

加入経験のある学外のサークル・同好会は、スポーツ系が半数以上であり73名（55.3%）、文化系31名（23.5%）、社会への貢献21名（15.9%）であった。

表4-3 加入経験のある学外のサークル・同好会（学年別）

		スポーツ系	文化系	社会への 貢献	その他	合計
学部	1年	30 68.2	9 20.5	2 4.5	6 13.6	44 100.0
	2年	14 48.3	5 17.2	5 17.2	8 27.6	29 100.0
	3年	14 58.3	6 25.0	6 25.0	1 4.2	24 100.0
	編入3年	-	-	-	-	-
	4年	14 46.7	9 30.0	7 23.3	2 6.7	30 100.0
	編入4年	-	-	-	-	-
	大学院	国際保健 助産学	-	1 33.3	1 33.3	2 66.7
	看護学	1 50.0	1 50.0	-	-	2 100.0
合計		73 55.3	31 23.5	21 15.9	19 14.4	132 100.0

4) 課外活動への参加理由（質問6-1のC）

課外活動に参加している者のうち、「興味・関心があったから」141名（77.0%）、「楽しむため」141名（71.9%）がほぼ同数で最も多く、次いで、「友人を得るため」101名（51.5%）、「知識・教養等を身につけるため」68名（34.7%）、「健康増進のため」35名（17.9%）となっている（表4-4）。これは前回調査とほぼ同様の傾向である。

表4-4 課外活動への参加理由（学年別：複数回答）

		友人を得るため	知識・教養・技術等を身につけるため	人格形成のため	興味・関心があったから	楽しむため	健康増進のため	その他	合計
学部	1年	37 57.8	20 31.3	11 17.2	47 73.4	47 73.4	13 20.3	2 3.1	64 100.0
	2年	25 53.2	16 34.0	6 12.8	39 83.0	32 68.1	8 17.0	1 2.1	47 100.0
	3年	23 59.0	19 48.7	7 17.9	32 82.1	27 69.2	5 12.8	1 2.6	39 100.0
	編入3年	-	-	-	-	-	-	-	-
	4年	16 41.0	11 28.2	3 7.7	29 74.4	32 82.1	8 20.5	3 7.7	39 100.0
	編入4年	-	-	-	-	-	-	-	-
大学院	国際保健 助産学	-	2 50.0	-	3 75.0	1 25.0	-	-	4 100.0
	看護学	-	-	-	1 33.3	2 66.7	1 33.3	-	3 100.0
合計		101 51.5	68 34.7	27 13.8	151 77.0	141 71.9	35 17.9	7 3.6	196 100.0

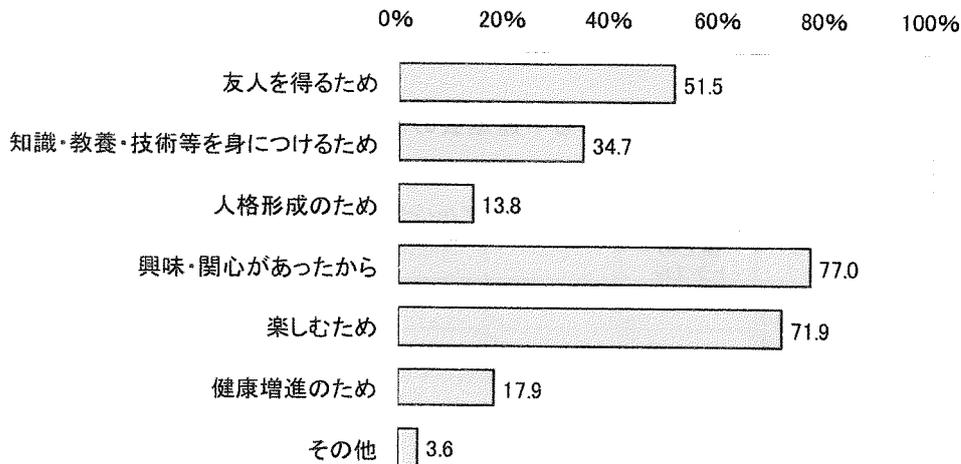


図4-2 課外活動への参加理由

5) 課外活動の不参加理由 (質問6-2)

課外活動に参加しない理由は、「興味ある課外活動がない」が36名 (31.9%)、「課外活動に興味がない」25名 (22.1%)、「学業と両立しない」23名 (20.4%)であった。(表4-5)。

表4-5 課外活動の不参加理由 (学年別)

		課外活動に興味がない	興味ある課外活動がない	学業と両立しない	アルバイトがあるから	通学時間が長いから	その他	合計
学部	1年	4 19.0	9 42.9	2 9.5	4 19.0	1 4.8	1 4.8	21 100.0
	2年	3 18.8	7 43.8	-	3 18.8	2 12.5	1 6.3	16 100.0
	3年	5 33.3	9 60.0	-	1 6.7	-	-	15 100.0
	編入3年	-	-	1 33.3	-	2 66.7	-	3 100.0
	4年	5 27.8	8 44.4	1 5.6	2 11.1	1 5.6	1 5.6	18 100.0
	編入4年	-	1 16.7	1 16.7	3 50.0	1 16.7	-	6 100.0
大学院	国際保健 助産学	2 20.0	1 10.0	7 70.0	-	-	-	10 100.0
	看護学	6 25.0	1 4.2	11 45.8	-	-	6 25.0	24 100.0
	合計	25 22.1	36 31.9	23 20.4	13 11.5	7 6.2	9 8.0	113 100.0

6) 課外活動における中途退会の理由 (質問6-3)

表4-6に挙げたように、総数としても28名とさほど多くはないが、理由としては「課外活動に興味がなくなった」「学業と両立しない」が主な理由としてあげられた。

表4-6 課外活動における中途退会の理由 (学年別)

		課外活動に興味がなくなった	課外活動の方針への不満や人間関係上のトラブル	学業と両立しない	アルバイトがあるから	通学時間が長いから	その他	合計
学部	1年	1 100.0	-	-	-	-	-	1 100.0
	2年	2 50.0	-	1 25.0	-	-	1 25.0	4 100.0
	3年	3 33.3	3 33.3	-	1 11.1	1 11.1	1 11.1	9 100.0
	編入3年	-	-	-	-	-	-	-
	4年	2 18.2	1 9.1	2 18.2	2 18.2	1 9.1	3 27.3	11 100.0
	編入4年	-	-	-	-	-	-	-
大学院	国際保健 助産学	-	-	1 100.0	-	-	-	1 100.0
	看護学	-	-	2 100.0	-	-	-	2 100.0
	合計	8 28.6	4 14.3	6 21.4	3 10.7	2 7.1	5 17.9	28 100.0

7) 課外教育

(1) 夏期休暇の主な行動 (質問6-4のA)

表4-7 夏期休暇中の主な行動

		国内旅行	海外旅行	自動車等の 免許の取得	合宿	研究や勉強	アルバイト	ボランティア 活動	その他	合計
学部	1年	37 38.9	9 9.5	13 13.7	41 43.2	15 15.8	65 68.4	10 10.5	6 6.3	95 100.0
	2年	38 49.4	23 29.9	10 13.0	19 24.7	4 5.2	62 80.5	8 10.4	5 6.5	77 100.0
	3年	35 54.7	13 20.3	5 7.8	15 23.4	7 10.9	45 70.3	12 18.8	6 9.4	64 100.0
	編入3年	2 50.0	-	-	-	1 25.0	4 100.0	-	1 25.0	4 100.0
	4年	27 42.9	12 19.0	4 6.3	8 12.7	47 74.6	41 65.1	4 6.3	8 12.7	63 100.0
	編入4年	1 16.7	-	-	-	4 66.7	4 66.7	2 33.3	-	6 100.0
大学院	国際保健 助産学	5 31.3	-	-	-	12 75.0	1 6.3	-	4 25.0	16 100.0
	看護学	4 12.9	2 6.5	-	-	28 90.3	9 29.0	2 6.5	4 12.9	31 100.0
	合計	149 41.9	59 16.6	32 9.0	83 23.3	118 33.1	231 64.9	38 10.7	34 9.6	356 100.0

(2) 課外教育の経験の有無と受講講座 (質問6-4のB、B-1)

表4-8に示したように、大学入学後、技術や資格取得のための学外活動の有無を見ると、総数では「ある」と回答した学生が42名 (12.1%) となっており、前々回 (23.1%)、また前回の調査結果 (17.8%) から比べると継続して減少傾向にあるといえる。これはアルバイト状況からも見られたように、学生の経済状況が益々厳しくなっていることを表していると考えられる。

受講した講座については表4-9のとおり、「語学」13名 (31.7%) が最も多く、次いで「各種資格の予備校」11名 (26.8%) となった。

表4-8 学外学校への通学経験 (学年別)

		ある	ない	合計
学部	1年	9 9.7	84 90.3	93 100.0
	2年	5 6.6	71 93.4	76 100.0
	3年	8 13.1	53 86.9	61 100.0
	編入3年	-	4 100.0	4 100.0
	4年	15 24.2	47 75.8	62 100.0
	編入4年	2 40.0	3 60.0	5 100.0
大学院	国際保健 助産学	-	15 100.0	15 100.0
	看護学	3 9.7	28 90.3	31 100.0
合計	42 12.1	305 87.9	347 100.0	

表4-9 受講した講座（学年別）

		語学	スポーツ・エアロビクス・ダンス等	各種資格の予備校	茶道・華道	料理	音楽	その他	合計
学部	1年	-	-	5	1	-	-	3	9
				55.6	11.1			33.3	100.0
	2年	2	1	-	-	-	-	3	5
		40.0	20.0					60.0	100.0
	3年	3	3	1	-	-	1	1	7
		42.9	42.9	14.3			14.3	14.3	100.0
編入3年	-	-	-	-	-	-	-	-	-
4年	5	1	4	-	1	-	4	15	
	33.3	6.7	26.7		6.7		26.7	100.0	
編入4年	1	-	1	-	-	-	-	-	2
	50.0		50.0						100.0
大学院	国際保健助産学	-	-	-	-	-	-	-	-
	看護学	2	1	-	-	-	-	-	3
	66.7	33.3							100.0
合計		13	6	11	1	1	1	11	41
		31.7	14.6	26.8	2.4	2.4	2.4	26.8	100.0

(3) 課外教育プログラムへの希望（質問6-4のC）

最も希望の多い大学主催の課外教育プログラム（表4-10）は、前々回、前回同様「海外研修」106名（30.2%）であったが、前回調査より7.1%減少していた。次いで「教養講座等の講演会」が57名（16.2%）となっている。前回調査時から減少傾向であった「救急法の講習会」は45名（12.8%）と1.0%増えた。また「映画鑑賞」55名（15.7%）は3.4%増加していた。

表4-10 希望する大学主催の課外教育プログラム

		教養講座等の講演会	映画鑑賞	音楽鑑賞	ハイキング・キャンプ等	スポーツ講習会等	海外研修	救急法の講習会	その他	合計
学部	1年	6	18	7	17	2	29	15	3	97
		6.2	18.6	7.2	17.5	2.1	29.9	15.5	3.1	100.0
	2年	9	10	4	7	5	22	15	4	76
		11.8	13.2	5.3	9.2	6.6	28.9	19.7	5.3	100.0
	3年	7	12	6	7	1	24	5	-	62
		11.3	19.4	9.7	11.3	1.6	38.7	8.1		100.0
編入3年	3	-	-	-	-	-	1	-	4	
	75.0						25.0		100.0	
4年	12	8	2	5	7	19	6	3	62	
	19.4	12.9	3.2	8.1	11.3	30.6	9.7	4.8	100.0	
編入4年	-	-	-	-	-	5	1	-	6	
						83.3	16.7		100.0	
大学院	国際保健助産学	4	4	1	-	-	4	2	1	16
	看護学	25.0	25.0	6.3			25.0	12.5	6.3	100.0
	16	3	2	2	3	-	-	2	28	
	57.1	10.7	7.1	7.1	10.7			7.1	100.0	
合計		57	55	22	38	15	106	45	13	351
		16.2	15.7	6.3	10.8	4.3	30.2	12.8	3.7	100.0

5. 生活時間について

1) 睡眠時間（質問7のA）

実習の影響が睡眠時間にどの程度影響を及ぼしているのかを比較するために、実習の有無に分けて質問をおこなった（図5-1）。まず、実習がない期間の場合、1日の睡眠時間で最も多いのは「5～6時間未満」152名（42.8%）、次いで「6～7時間未満」93名（26.2%）、「4～5時間未満」59名（16.6%）、「7～8時間未満」35名（9.9%）、「8時間以上」4名（1.1%）、「3～4時間未満」12名（3.4%）であった。前回の調査では、睡眠時間6時間未満の学生の割合は50.6%から、今回の調査結果では、62.8%と増加していたことから、全体として睡眠時間を多くとる学生が減少傾向にある。

次に、実習期間中の場合をみると、最も多いのが「4～5時間未満」105名（31.9%）、次いで「5～6時間未満」96名（29.2%）、「3～4時間未満」68名（20.7%）となっており、「3時間未満」も22名（6.7%）とかなりの人数に上がっていた。全体として88.5%の学生が6時間未満で、前回調査時（85.2%）よりわずかに増加していた。実習のない期間での睡眠時間6時間未満の学生の割合は62.8%と実習のある時期と比べると低く、実習の影響がかなり大きいと思われる。この傾向は前々回、前回の調査結果と同様であった。

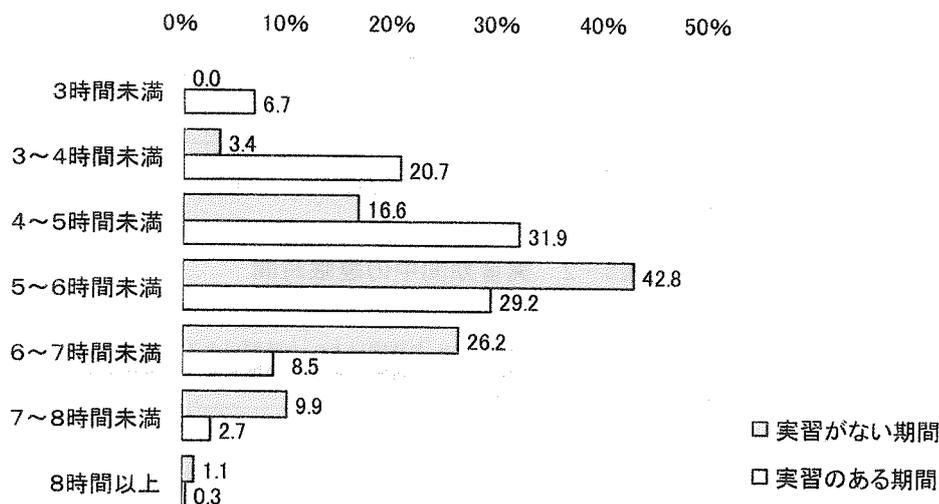


図5-1 睡眠時間の比較（実習期間の有無）

次に、実習のない期間の睡眠時間を学年別に比較すると（表5-1）、睡眠時間が6時間未満の学生の割合が多い学年は、大学院修士課程（国際保健助産学専攻）（68.8%）、1年生（68.5%）、2年生（68.4%）、大学院修士課程（看護学専攻）（67.7%）であり、3年生（56.3%）、4年生（54.0%）、編入3年生（50.0%）、編入4年生（33.3%）であった。今回の調査結果で学部生においては、学年が上になると睡眠時間が多くなる傾向を示しており、このような傾向は前々回の調査結果でも認められた。

さらに実習期間中の睡眠時間を学年別に比較してみると（表5-2）、「3～4時間未満」が多い学年は2年生19名(30.2%)、4年生14名(35.9%)であり、「5～6時間未満」が多い学年は編入3年生3名(25.0%)、編入4年生9名(37.5%)であった。

2年生の睡眠時間が少ない傾向は前回の調査結果と同様で、本格的な実習の負担が大きいことが窺える。また、4年生の睡眠時間が少ない理由として、実習内容の深まりに加え卒業研究や国家試験の準備など課題が増えていることなどが影響していると思われる。他の学年と比較すると、編入3年生と編入4年生は睡眠時間が多く、編入前の実習経験を生かし生活時間の調整をしているものと思われる。

表5-1 実習がない期間の睡眠時間

		3時間未満	3時間以上4時間未満	4時間以上5時間未満	5時間以上6時間未満	6時間以上7時間未満	7時間以上8時間未満	8時間以上	合計
学部	1年	—	5 5.3	19 20.0	41 43.2	20 21.1	7 7.4	3 3.2	95 100.0
	2年	—	2 2.6	16 21.1	34 44.7	17 22.4	7 9.2	—	76 100.0
	3年	—	1 1.6	9 14.1	26 40.6	20 31.3	8 12.5	—	64 100.0
	編入3年	—	—	—	2 50.0	1 25.0	1 25.0	—	4 100.0
	4年	—	1 1.6	8 12.7	25 39.7	23 36.5	6 9.5	—	63 100.0
	編入4年	—	—	—	2 33.3	2 33.3	2 33.3	—	6 100.0
	大学院	国際保健 助産学	—	3 18.8	2 12.5	6 37.5	3 18.8	1 6.3	1 6.3
	看護学	—	—	5 16.1	16 51.6	7 22.6	3 9.7	—	31 100.0
合計		—	12 3.4	59 16.6	152 42.8	93 26.2	35 9.9	4 1.1	355 100.0

表5-2 実習期間中の睡眠時間

		3時間未満	3時間以上4時間未満	4時間以上5時間未満	5時間以上6時間未満	6時間以上7時間未満	7時間以上8時間未満	8時間以上	合計
学部	1年	—	11 15.5	16 22.5	26 36.6	13 18.3	5 7.0	—	71 100.0
	2年	6 7.9	10 13.2	31 40.8	26 34.2	3 3.9	—	—	76 100.0
	3年	8 12.7	19 30.2	17 27.0	14 22.2	5 7.9	—	—	63 100.0
	編入3年	—	1 33.3	—	—	1 33.3	—	1 33.3	3 100.0
	4年	5 7.9	15 23.8	29 46.0	13 20.6	—	1 1.6	—	63 100.0
	編入4年	—	1 16.7	3 50.0	1 16.7	1 16.7	—	—	6 100.0
	大学院	国際保健 助産学	3 18.8	9 56.3	—	2 12.5	1 6.3	1 6.3	—
	看護学	—	2 6.5	9 29.0	14 45.2	4 12.9	2 6.5	—	31 100.0
合計		22 6.7	68 20.7	105 31.9	96 29.2	28 8.5	9 2.7	1 0.3	329 100.0

2) 学習時間（質問7のB）

大学における正規の学習時間以外での、1日の自己学習時間について実習の有無に分けて質問してみると（図5-2）、実習のない期間の場合、最も多いのは「1時間未満」210名(59.3%)、次いで「1～2時間未満」87名(24.6%)で、学習時間が増えるほど回答者数が減る傾向を示している。学年別に比較してみると（表5-3）、学部生では編入3年生を除く学年で最も多いのが「1時間未満」であった。「4時間以上」と回答した学生は21名（5.9%）であったが、そのうち20名は大学院生であった。

次に、実習期間中の場合をみると、最も多いのは「2～3時間未満」97名(30.1%)、次いで「1～2時間未満」76名(23.6%)、「3～4時間未満」52名（16.1%）、「4時間以上」52名（16.1%）であった。「1時間未満」と回答した学生は45名（14.0%）であった。が、そのうち40名は1年生であった。学年別に比較してみると（表5-4）、1年生は「1時間未満」40名（58.8%）、「1～2時間未満」23名(33.8%)と、ほとんどの学生が2時間未満の学習時間であった。学年が上になると学習時間の長い学生が増加する傾向にあるが、なかでも3年生に学習時間の長い学生が最も多い傾向にあった。3年生は専門領域の実習が実施されるため実習期間が集中することと、各領域の専門的知識や技術が必要とされるためだと考えられる。

前回調査までは、学習時間について実習の有無に分けて調査していなかったため、比較は難しいが、「1時間未満」と回答した割合は、今回の調査結果の方が多くなっており（前回45.6%、前々回43.4%）、学部生では、全体的に学習時間の少ない学生が増加している印象がある。大学院生では、全体的に学習時間は多いが、実習がない期間で「1時間未満」「1～2時間未満」と回答した学生が6名いた。目的意識を持って大学院に進学しても、何らかの理由により、学習のために時間を充てられていない者がいることが明らかになった。

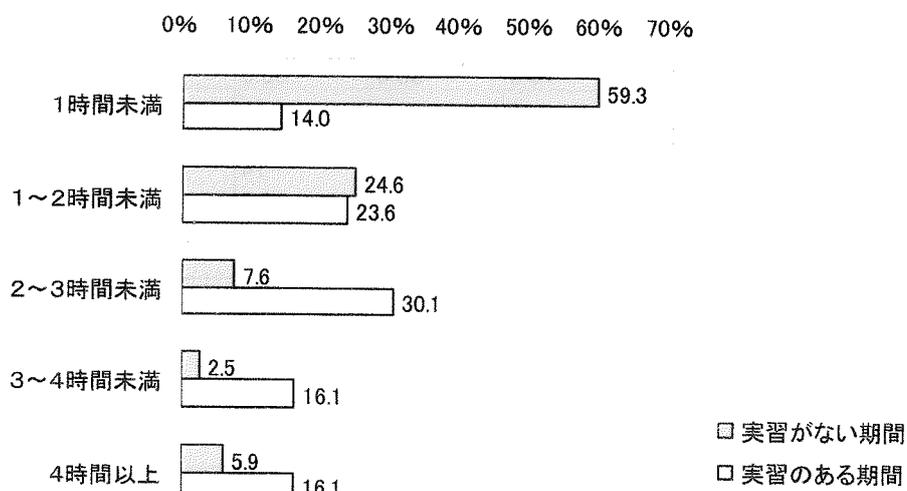


図5-2 学習時間（実習期間の有無）

表5-3 実習がない期間の学習時間

		1時間未満	1時間以上 ～2時間未 満	2時間以上 ～3時間未 満	3時間以上 ～4時間未 満	4時間以上	合計
学部	1年	60 61.9	27 27.8	7 7.2	2 2.1	1 1.0	97 100.0
	2年	60 78.9	15 19.7	1 1.3	-	-	76 100.0
	3年	38 61.3	23 37.1	-	1 1.6	-	62 100.0
	編入3年	1 25.0	1 25.0	2 50.0	-	-	4 100.0
	4年	43 68.3	17 27.0	2 3.2	1 1.6	-	63 100.0
	編入4年	5 83.3	1 16.7	-	-	-	6 100.0
	大学院	国際保健 助産学	2 12.5	1 6.3	7 43.8	1 6.3	5 31.3
看護学		1 3.3	2 6.7	8 26.7	4 13.3	15 50.0	30 100.0
合計		210 59.3	87 24.6	27 7.6	9 2.5	21 5.9	354 100.0

表5-4 実習期間中の学習時間

		1時間未満	1時間以上 ～2時間未 満	2時間以上 ～3時間未 満	3時間以上 ～4時間未 満	4時間以上	合計
学部	1年	40 58.8	23 33.8	4 5.9	-	1 1.5	68 100.0
	2年	1 1.3	18 23.7	33 43.4	15 19.7	9 11.8	76 100.0
	3年	-	6 10.0	18 30.0	18 30.0	18 30.0	60 100.0
	編入3年	1 33.3	1 33.3	-	-	1 33.3	3 100.0
	4年	1 1.6	13 20.6	27 42.9	14 22.2	8 12.7	63 100.0
	編入4年	1 16.7	3 50.0	2 33.3	-	-	6 100.0
	大学院	国際保健 助産学	-	1 6.3	4 25.0	2 12.5	9 56.3
看護学		1 3.3	11 36.7	9 30.0	3 10.0	6 20.0	30 100.0
合計		45 14.0	76 23.6	97 30.1	52 16.1	52 16.1	322 100.0

3) 自由時間（質問7のC）

学生がテレビや音楽、電話等で過ごす自由時間（表5-5）について、最も多いのは「1～2時間未満」143名(40.5%)、次いで「2～3時間未満」97名(27.5%)、「1時間未満」48名(13.6%)の順であった。今回の調査結果で「1～2時間未満」と回答した割合は、前々回42.7%、前回39.9%と比べて多少の増減はあるものの、最近の学生の自由時間は減少傾向にあると思われる。

学年別で比較してみると、編入4年生を除く学年で最も多いのが「1～2時間未満」で、違いはあまりみられなかった。

表5-5 自由時間（TV・音楽・電話等）

		1時間未満	1時間以上 ～2時間未 満	2時間以上 ～3時間未 満	3時間以上 ～4時間未 満	4時間以上	合計
学部	1年	9 9.3	40 41.2	28 28.9	10 10.3	10 10.3	97 100.0
	2年	10 13.3	29 38.7	25 33.3	5 6.7	6 8.0	75 100.0
	3年	14 22.2	25 39.7	12 19.0	5 7.9	7 11.1	63 100.0
	編入3年	-	2 50.0	1 25.0	-	1 25.0	4 100.0
	4年	4 6.3	26 41.3	19 30.2	9 14.3	5 7.9	63 100.0
	編入4年	2 33.3	1 16.7	2 33.3	-	1 16.7	6 100.0
	大学院	国際保健 助産学	4 25.0	8 50.0	1 6.3	3 18.8	-
看護学		5 17.2	12 41.4	9 31.0	2 6.9	1 3.4	29 100.0
合計		48 13.6	143 40.5	97 27.5	34 9.6	31 8.8	353 100.0

4) 通学時間（質問7のD）

学生の通学時間（片道）で最も多いのは「60～90分未満」131名(36.7%)で、次いで「30～60分未満」103名(28.9%)、「90～120分未満」73名(20.4%)、「120分以上」33名(9.2%)、「30分未満」17名(4.8%)の順であった（図5-3）。前回の調査結果で最も多かったものは「60～90分未満」(27.9%)、次いで「30～60分未満」(27.5%)、「90～120分未満」(20.2%)と今回の調査結果と同様であった。また、「120分以上」の学生の割合も前回の調査結果(8.0%)より増えており、全体として通学時間が増していた。

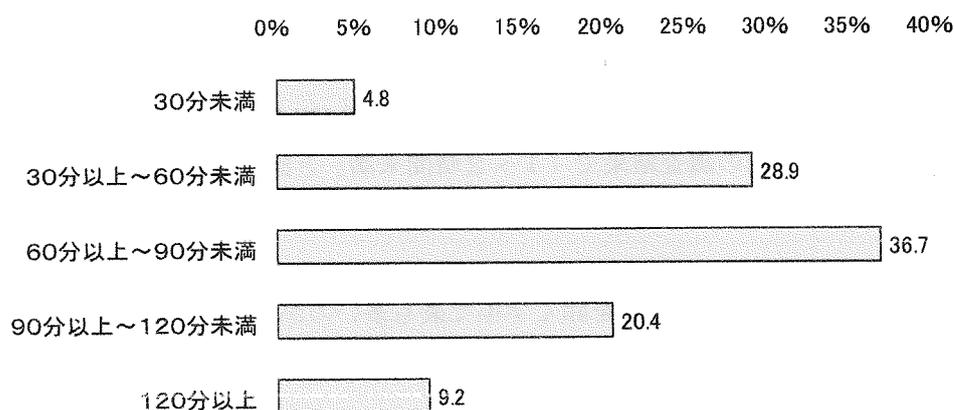


図5-3 通学時間(片道)

5) 課外活動時間 (質問7のE)

学生が学内・外のクラブやサークル等で過ごす時間は、最も多いのは「1時間未満」196名(60.5%)で、次いで「1～2時間未満」51名(15.7%)、「2～3時間未満」42名(13.0%)、「3～4時間未満」19名(5.9%)、「4時間以上」16名(4.9%)の順で、活動時間が減るにつれ回答者数が減っていた(表5-6)。学年別で比較すると、すべての学年で最も多いのは「1時間未満」であり、その学年の6割以上が「1時間未満」と回答しているのは、編入生と4年生、大学院生であった。前回の調査結果で最も多かったものは「1時間未満」(53.9%)、次いで「1～2時間未満」(21.2%)と今回の調査結果と同じであるが、その割合をみると、課外活動時間が減少しているといえる。

表5-6 課外活動時間

		1時間未満	1時間以上 ～2時間未 満	2時間以上 ～3時間未 満	3時間以上 ～4時間未 満	4時間以上	合計
学部	1年	45 49.5	18 19.8	14 15.4	10 11.0	4 4.4	91 100.0
	2年	39 56.5	9 13.0	11 15.9	4 5.8	6 8.7	69 100.0
	3年	33 54.1	12 19.7	7 11.5	4 6.6	5 8.2	61 100.0
	編入3年	4 100.0	-	-	-	-	4 100.0
	4年	41 70.7	8 13.8	8 13.8	1 1.7	-	58 100.0
	編入4年	3 60.0	1 20.0	-	-	1 20.0	5 100.0
	大学院	国際保健 助産学	12 80.0	2 13.3	1 6.7	-	-
看護学		19 90.5	1 4.8	1 4.8	-	-	21 100.0
合計		196 60.5	51 15.7	42 13.0	19 5.9	16 4.9	324 100.0

6. 健康状態について

1) 身体面の健康 (質問8)

日頃の健康状態の結果は、図6-1に示した。「いつも好調で、異常を感じない」と回答した学生は81名(23.1%)、「年に1～2回風邪を引く程度」は、197名(56.3%)であった。前回の調査結果は「いつも好調で、異常を感じない」(24.5%)、「年に1～2回風邪を引く程度」(50.0%)で、この2項目を合わせて比較的健康状態が良好と捉えると278名(79.4%)で、前回の調査結果74.5%に比べると健康状態が良好な学生の割合がわずかに増していた。

「3ヶ月に1～2回は病気によって欠席することがある」と回答した学生は20名(5.7%)で、「1ヶ月に1～2回は病気によって欠席することがある」は1名(0.3%)、「常に疲労感や不調を感じている」35名(10.0%)、「治療している病気がある」9名(2.6%)であった。前回の調査結果は、「常に疲労感や不調を感じている」(11.5%)、「治療している病気がある」(5.6%)であり、今回の調査結果と比べると健康状態の芳しくない学生の割合が減少していた。なお、治療している病気には、過敏性腸症候群、貧血、自己免疫疾患、呼吸器疾患、腰痛などが挙げられていた。

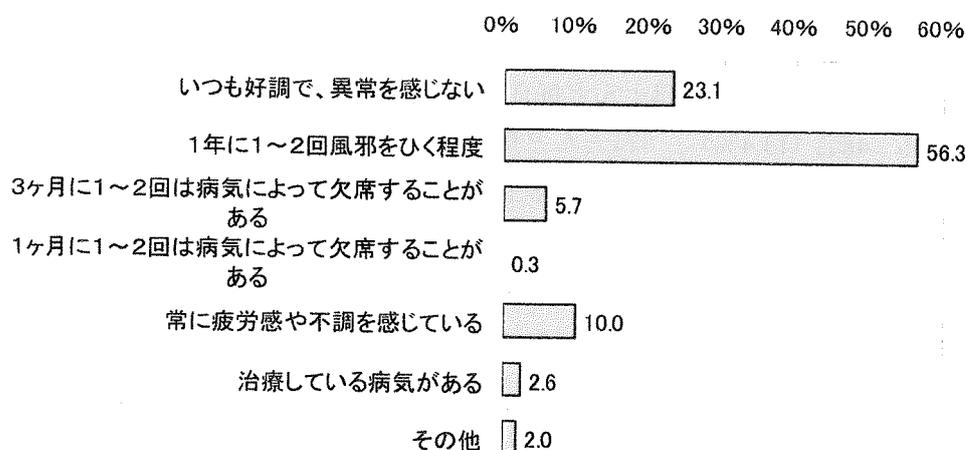


図6-1 健康状態

学年別の健康状態は、表6-1に示した。すべての学年で最も回答が多いものは、「年に1～2回風邪を引く程度」であった。1、3年生に比して、2、4年生は疲労や健康状態の不調を訴えているものの割合が多い傾向にあり、「いつも好調で、異常を感じない」の割合が最も少ないのは4年生であった。この結果は、前回の調査結果と同じであった。大学院生では、看護学専攻の学生が疲労や健康状態の不調を訴えているものの割合が多かった。

疲労や健康状態の不調の訴えの割合の多い2、4年生は実習中の睡眠時間が短く、疲労や健康状態の不調の訴える割合の少ない、編入3、4年生は実習の睡眠時間が長い傾向がみられ、健康状態に睡眠時間が影響していると考えられる。

表6-1 健康状態（学年別）

		いつも好調で、異常を感じない	1年に1～2回風邪をひく程度	3ヶ月に1～2回は病気によって欠席することがある	1ヶ月に1～2回は病気によって欠席することがある	常に疲労感や不調を感じている	治療している病気がある	その他	合計
学部	1年	29 30.5	54 56.8	5 5.3	1 1.1	5 5.3	1 1.1	-	95 100.0
	2年	13 17.8	44 60.3	2 2.7	-	12 16.4	1 1.4	1 1.4	73 100.0
	3年	21 33.9	30 48.4	2 3.2	-	5 8.1	4 6.5	-	62 100.0
	編入3年	-	3 75.0	-	-	-	1 25.0	-	4 100.0
	4年	7 11.1	41 65.1	7 11.1	-	2 3.2	2 3.2	4 6.3	63 100.0
	編入4年	1 16.7	2 33.3	1 16.7	-	2 33.3	-	-	6 100.0
	大学院	国際保健 助産学	6 37.5	7 43.8	1 6.3	-	2 12.5	-	-
看護学		4 12.9	16 51.6	2 6.5	-	7 22.6	-	2 6.5	31 100.0
合計		81 23.1	197 56.3	20 5.7	1 0.3	35 10.0	9 2.6	7 2.0	350 100.0

2) 食生活について（質問9）

本調査項目は、食生活の状況が健康状態に関連が高いことから、今回の調査より新たに追加したものである。朝食では、「ほとんど毎日食べている」271名（75.9%）、次いで「ときどき食べている」48名（13.4%）、「ほとんど食べていない」38名（10.6%）であった（表6-2）。「ほとんど毎日食べる」と回答した学生の割合が8割未満の学年は、2年生、4年生、編入4年生、大学院生（国際保健助産学専攻）であった。このうち2年生と4年生は、実習期間中の睡眠時間が短く、疲労感や健康状態の不調の訴えの割合の多い学年である。「ほとんど食べていない」と回答した学生は、1、2年生に多かった。

昼食では、345名（96.6%）の学生が「ほとんど毎日食べている」と回答していた。「ときどき食べている」と回答した学生10名（2.8%）は、各学年に少数ずつ存在し、「ほとんど食べていない」と回答した学生2名（0.6%）は1年生であった（表6-3）。

夕食では、323名（90.5%）の学生が「ほとんど毎日食べている」と回答していた。「ときどき食べている」と回答した学生31名（8.7%）の3分の1は1年生であった。「ほとんど食べていない」と回答した学生は3名（0.8%）であった（表6-4）。

表6-2 朝食の摂取頻度（学年別）

		ほとんど毎日 食べて いる	ときどき 食べている	ほとんど食べ ていない	合計
学部	1年	79 80.6	8 8.2	11 11.2	98 100.0
	2年	56 73.7	10 13.2	10 13.2	76 100.0
	3年	51 81.0	6 9.5	6 9.5	63 100.0
	編入3年	4 100.0	-	-	4 100.0
	4年	43 68.3	15 23.8	5 7.9	63 100.0
	編入4年	2 33.3	2 33.3	2 33.3	6 100.0
	大学院	国際保健 助産学	8 50.0	6 37.5	2 12.5
看護学		28 90.3	1 3.2	2 6.5	31 100.0
合計		271 75.9	48 13.4	38 10.6	357 100.0

表6-3 昼食の摂取頻度（学年別）

		ほとんど毎日 食べて いる	ときどき 食べている	ほとんど食べ ていない	合計
学部	1年	94 95.9	2 2.0	2 2.0	98 100.0
	2年	75 98.7	1 1.3	-	76 100.0
	3年	61 96.8	2 3.2	-	63 100.0
	編入3年	4 100.0	-	-	4 100.0
	4年	61 96.8	2 3.2	-	63 100.0
	編入4年	4 66.7	2 33.3	-	6 100.0
	大学院	国際保健 助産学	16 100.0	-	-
看護学		30 96.8	1 3.2	-	31 100.0
合計		345 96.6	10 2.8	2 0.6	357 100.0

表6-4 夕食の摂取頻度（学年別）

		ほとんど毎日 食べて いる	ときどき 食べている	ほとんど食べ ていない	合計
学部	1年	87 88.8	10 10.2	1 1.0	98 100.0
	2年	69 90.8	7 9.2	-	76 100.0
	3年	57 90.5	6 9.5	-	63 100.0
	編入3年	4 100.0	-	-	4 100.0
	4年	57 90.5	5 7.9	1 1.6	63 100.0
	編入4年	4 66.7	2 33.3	-	6 100.0
	大学院	国際保健 助産学	15 93.8	-	1 6.3
看護学		30 96.8	1 3.2	-	31 100.0
合計		323 90.5	31 8.7	3 0.8	357 100.0

3) 精神面の健康

(1) 入学から今までの悩みや不安 (質問10)

入学してから今までに悩みや不安があったと回答した学生は284名(79.6%)と多いが、前回の調査結果82.1%よりは減っていた (表6-5)。

表6-5 入学してから今までの悩みや不安 (学年別)

		あった (ある)	なかった(ない)	合計
学部	1年	68 69.4	30 30.6	98 100.0
	2年	54 71.1	22 28.9	76 100.0
	3年	54 84.4	10 15.6	64 100.0
	編入3年	3 75.0	1 25.0	4 100.0
	4年	57 90.5	6 9.5	63 100.0
	編入4年	4 66.7	2 33.3	6 100.0
	大学院	国際保健 助産学	15 100.0	-
看護学		29 93.5	2 6.5	31 100.0
合計		284 79.6	73 20.4	357 100.0

悩みや不安内容の内訳 (複数回答) をみると、最も多いものは「友人との人間関係」156名(55.3%)、次いで「看護師・助産師としての適性」130人(54.9%)、「将来の進路」132人(55.7%)、「学業に関する能力的問題」138名(48.9%)、「経済的な問題」88人(31.2%)、「人生観について」84名(29.8%)、「家族や家庭内のこと」84(29.8%)、「異性問題」61人(21.6%)、「健康について」55名(19.5%)、「課外活動」27名(9.6%)、「その他」12人(4.3%)の順であった。

前回の調査で、最も多かったものは「友人との人間関係」(59.9%)、次いで「学業に関する能力的問題」(59.5%)、「将来の進路」(55.7%)、「看護師・助産師としての適性」(54.9%)で、上位4位までは順位の入替わりはあるものの同じ内容がみられた。今回の調査結果では、前回8位であった「経済的な問題」(26.5%)が5位となり、前回5位であった「異性問題」(37.1%)は、8位となっていた。これらは調査対象者に大学院生が関わっていることが影響していると考えられる。前回の調査結果に引き続き、学生は看護師としての適性や将来の進路など将来に対する不安や悩みよりも、友人との人間関係といった身近な生活で直面する問題に悩みや不安を感じていると思われる。

表6-6 悩みや不安の内容（学年別）

		看護師・助産師としての適性	学業に関する能力的問題	健康について	人生観について	将来の進路	友人との人間関係	異性問題	家族や家庭内のこと	経済的な問題	課外活動	その他	合計
学部	1年	30 44.8	27 40.3	7 10.4	16 23.9	28 41.8	48 71.6	14 20.9	24 35.8	24 35.8	7 10.4	1 1.5	67 100.0
	2年	31 57.4	17 31.5	10 18.5	11 20.4	20 37.0	27 50.0	13 24.1	12 22.2	15 27.8	5 9.3	2 3.7	54 100.0
	3年	35 64.8	22 40.7	12 22.2	20 37.0	31 57.4	30 55.6	13 24.1	20 37.0	20 37.0	9 16.7	2 3.7	54 100.0
	編入3年	-	3 100.0	1 33.3	1 33.3	1 33.3	1 33.3	-	1 33.3	1 33.3	-	-	3 100.0
	4年	33 58.9	22 39.3	17 30.4	23 41.1	38 67.9	34 60.7	15 26.8	16 28.6	12 21.4	6 10.7	1 1.8	56 100.0
	編入4年	1 25.0	2 50.0	1 25.0	4 100.0	3 75.0	2 50.0	1 25.0	2 50.0	3 75.0	-	-	4 100.0
	大学院	国際保健助産学	7 46.7	11 73.3	3 20.0	5 33.3	10 66.7	8 53.3	3 20.0	5 33.3	3 20.0	-	2 13.3
看護学		1 3.4	20 69.0	4 13.8	4 13.8	6 20.7	6 20.7	2 6.9	4 13.8	10 34.5	-	4 13.8	29 100.0
合計		138 48.9	124 44.0	55 19.5	84 29.8	137 48.6	156 55.3	61 21.6	84 29.8	88 31.2	27 9.6	12 4.3	282 100.0

学年別にみると、「友人との人間関係」は1年生（71.6%）が最も高く、次いで4年生（60.7%）、3年生（55.6%）であった。前回調査のような編入生で高い傾向は認められなかった。

「看護師・助産師としての適性」では、1・2年生よりも3・4年生が高い傾向を示していた。3・4年生は臨地実習がすすみ、専門性が追求される一方で自己の課題も明確になる時期であることが影響していると考えられる。また、学部生に比して編入生の方が低い傾向にあった。この傾向は前回の調査結果と同じであった。編入生は、すでに看護師国家資格を得ているものがほとんどで、大学教育あるいは保健師国家資格取得をめざして進学している背景から、看護職に対する適性に悩みや不安を覚える者は少ないようである。

「学業に関する能力的問題」では、編入3年生と大学院生が高い傾向を示していた。編入生、大学院生ともに保健師あるいは助産師という新たな資格取得や研究活動の過程において、自己の学業に関する能力的課題が明確になる時期であると考えられる。「将来の進路」では、編入4年生、4年生、大学院生（国際助産学専攻）、3年生で高い傾向を示していた。

不安や悩みの相談相手として、最も回答の多かったものは「友人」171名（60.6%）、次いで「家族」48名（17.0%）、「大学の教職員」6名（2.1%）、「恩師や先輩」3名（1.1%）、「カウンセラー」5名（1.8%）であった（図6-1）。「誰にも相談しない」と回答した学生は47名（16.7%）もあり、学部1年生、2年生、3年生の割合が高かった。前回の調査結果では、回答者の割合が多かったものは「友人」63.9%、「家族」11.8%と今回の調査と同じであるが、相談

相手が「家族」の占める割合は高くなっていった。携帯電話やe-mailなどの普及に伴い、容易に友人と連絡や相談ができる環境が反映していると思われるが、一方では「友人との関係」に悩みや不安を抱えている割合も高く、人間関係が複雑化していると思われる。そのようなことから、身近な家族への相談が増加していたと考えられる。悩みや不安の相談相手を学年別で比較すると、いずれも「友人」が多かった（表6-7）。

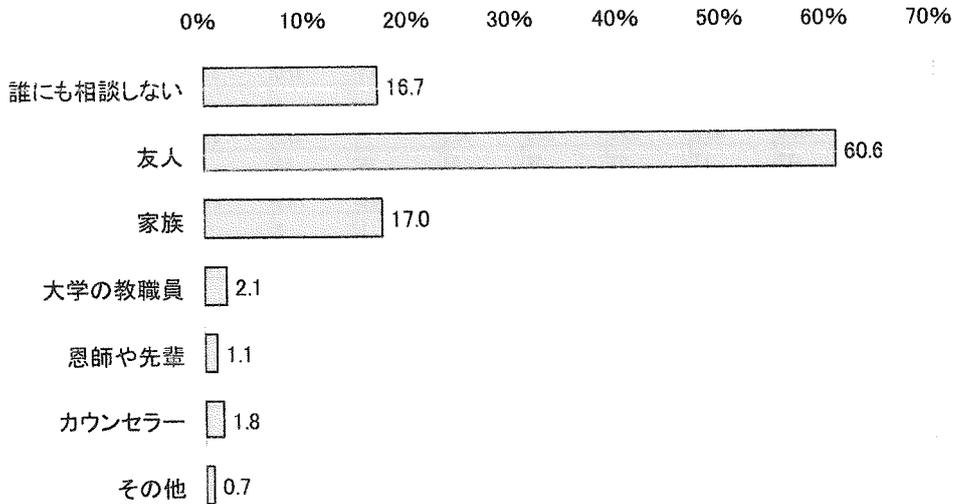


図6-2 悩みや不安の相談相手

表6-7 悩みや不安の相談相手（学年別）

		誰にも相談しない	友人	家族	大学の教職員	恩師や先輩	カウンセラー	その他	合計
学部	1年	11 16.2	38 55.9	13 19.1	2 2.9	1 1.5	2 2.9	1 1.5	68 100.0
	2年	13 24.5	25 47.2	14 26.4	1 1.9	-	-	-	53 100.0
	3年	13 24.5	34 64.2	6 11.3	-	-	-	-	53 100.0
	編入3年	-	2 66.7	1 33.3	-	-	-	-	3 100.0
	4年	7 12.3	41 71.9	6 10.5	2 3.5	-	-	1 1.8	57 100.0
	編入4年	-	3 75.0	-	1 25.0	-	-	-	4 100.0
	大学院	国際保健 助産学	-	11 73.3	4 26.7	-	-	-	-
看護学		3 10.3	17 58.6	4 13.8	-	2 6.9	3 10.3	-	29 100.0
合計		47 16.7	171 60.6	48 17.0	6 2.1	3 1.1	5 1.8	2 0.7	282 100.0

(2)大学の学生相談室の利用状況（質問11）

カウンセラーを設置している学生相談室を利用した学生の割合は、「利用した」45名（12.6%）、「利用していない」312名（97.4%）であった（表6-8）。利用した学生の割合を前回の調査結果（前回4.2%）と比較すると、相談室を利用した学生が約3倍に増えていた。

学年別では、3年生、4年生が学生相談室を利用する割合が高い傾向を示していた。3年生、4年生は実習のなかで多くの不安や困難にぶつかることが多いが、それらを解決するためにカンファレンスや個人的なやりとりの場を用いて、実習メンバーや指導教員など他者に相談する機会が多い。そのような経験がひとりで抱え込まずに他者に相談するという行動につながっているのではないかと考えられる。

表6-8 学生相談室の利用（学年別）

		利用した	利用していない	合計
学部	1年	9 9.2	89 90.8	98 100.0
	2年	2 2.6	74 97.4	76 100.0
	3年	11 17.2	53 82.8	64 100.0
	編入3年	-	4 100.0	4 100.0
	4年	16 25.4	47 74.6	63 100.0
	編入4年	1 16.7	5 83.3	6 100.0
大学院	国際保健 助産学	2 12.5	14 87.5	16 100.0
	看護学	4 13.3	26 86.7	30 100.0
	合計	45 12.6	312 87.4	357 100.0

(3)学生相談室の今後の利用意向（質問12）

学生相談室の今後の利用の意向を表6-9に示す。「利用したい」80名（22.5%）、「利用したいが躊躇する」43名（12.1%）でこの2項目を併せて利用の意向がみられる者の割合は34.6%であり、「利用したくない」と回答した者は65名（18.3%）であった。また「わからない」と回答した者は167名（47.0%）であった。どのような内容を相談したいと考えているかは不明であるが、約35%の学生は学生相談室を利用したいと考えており、前回調査より約5%増加していた。約80%の学生が学生生活に悩みや不安があると回答していたことから、学生が1人で悩みを抱え込まず気軽に相談できる場として活用されることが臨まれる。しかし、「利用したいが躊躇する」理由には、人に知られたくない、他の人の目が気になる、恥ずかしい、なんとなく入りづらいと心理的な問題や、混んでいる、行くタイミングがわ

からない、学校内で一人になる時がないといった時間的な問題、自分の気持ちや相談したいことが上手く伝えられないなどが挙げられていた。

学生相談室に関する利用案内は入学時と各学年のガイダンス時に行っており、必要と思われる場合はその都度、クラス担任や保健師、実習指導担当教員が学生相談室の利用をすすめている。また、学生相談室だよりの定期的な配布、カウンセラーからのメッセージの掲示など、学生への広報活動を今後も継続し相談室の利用を促していくことが必要である。

表6-9 学生相談室の今後の利用意向（学年別）

		利用したい	利用したいが躊躇する	利用したくない	わからない	合計
学部	1年	24 24.5	13 13.3	10 10.2	51 52.0	98 100.0
	2年	12 16.2	7 9.5	21 28.4	34 45.9	74 100.0
	3年	17 26.6	12 18.8	9 14.1	26 40.6	64 100.0
	編入3年	-	-	1 25.0	3 75.0	4 100.0
	4年	13 20.6	8 12.7	12 19.0	30 47.6	63 100.0
	編入4年	-	1 16.7	1 16.7	4 66.7	6 100.0
	大学院	国際保健 助産学	7 43.8	-	3 18.8	6 37.5
看護学		7 23.3	2 6.7	8 26.7	13 43.3	30 100.0
合計		80 22.5	43 12.1	65 18.3	167 47.0	355 100.0

7. 大学生活全般について

1) 本学を選択した理由 (質問 13 のA)

回答が得られた355名が本学を選んだ理由として、最も回答が多かった項目は、「大学の特色」の213名(60.0%)であった。次いで、「就職や将来のことを考えて」が206名(58.0%)であった。この結果は前回の調査とほぼ一致したものになっている。学部では1、2年生でこの傾向は逆転し、就職や将来のことが、大学の特色をかなり15ポイントから20ポイント近く凌いでいる。大学院では、その傾向が再度逆転し、大学の特色が将来性よりも大幅に多い。とりわけ、看護学専攻では9割以上がこの特色をあげているのは興味深い。

(表7-1)。

表7-1 本学を選んだ理由

		大学の特色 (教育内容や 専攻分野な ど)	奨学金制度 が充実してい るから	就職や将来 のことを考 えて	大学の立地 条件が良 いため	周囲の アドバイス	その他	合計
学部	1年	58 59.8	44 45.4	69 71.1	20 20.6	28 28.9	2 2.1	97 100.0
	2年	35 46.7	30 40.0	47 62.7	19 25.3	18 24.0	5 6.7	75 100.0
	3年	36 56.3	24 37.5	37 57.8	8 12.5	16 25.0	8 12.5	64 100.0
	編入3年	3 75.0	-	2 50.0	1 25.0	1 25.0	-	4 100.0
	4年	38 61.3	17 27.4	35 56.5	14 22.6	18 29.0	10 16.1	62 100.0
	編入4年	3 50.0	-	3 50.0	3 50.0	-	-	6 100.0
	大学院	国際保健 助産学	11 68.8	1 6.3	7 43.8	1 6.3	3 18.8	2 12.5
	看護学	29 93.5	-	6 19.4	3 9.7	4 12.9	4 12.9	31 100.0
合計		213 60.0	116 32.7	206 58.0	69 19.4	88 24.8	31 8.7	355 100.0

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70%

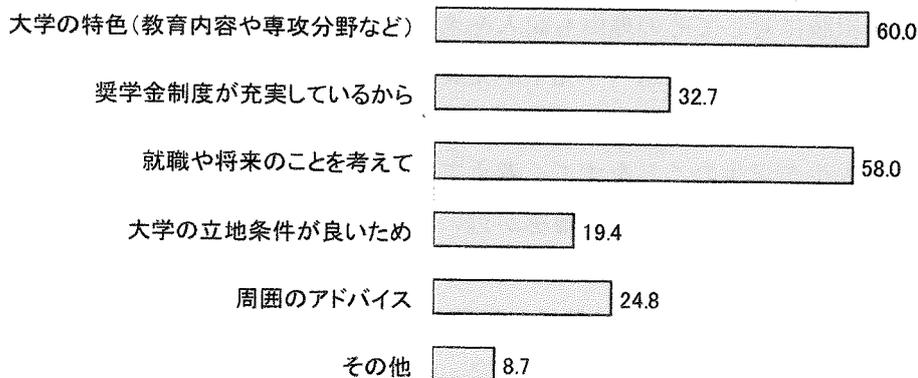


図7-1 本学を選んだ理由

2) 入学満足度 (質問13のB)

本学へ入学してからの満足度については、「よかったと思う」と答えた学生が最も多く258名 (72.7%) であった。一方、「よかったとはいえない」は14名 (3.9%)、「どちらともいえない」は83名 (23.4%) であった。「よかったと思う」については、2006年の結果より数ポイント低下しているが、ほぼ横ばいといえる。現在の在生の方が本学への入学をほぼ肯定的に受けとめている傾向にあった。

学年別に見ると、入学満足度は学年によって大きく異なり、1年生は「よかったと思う」が8割を超えているが、2年以上は6割強になっている。また「どちらともいえない」は2年生以上（編入は除く）は3割強占めている。入学後の迷いが生まれていることが分かる。大学院では8割強が肯定的に捉えている。（表7-2）。

表7-2 本学を入学してからの満足度

		よかったと思う	よかったとはいえない	どちらともいえない	合計
学部	1年	82 83.7	4 4.1	12 12.2	98 100.0
	2年	47 63.5	4 5.4	23 31.1	74 100.0
	3年	39 61.9	4 6.3	20 31.7	63 100.0
	編入3年	4 100.0	-	-	4 100.0
	4年	41 65.1	2 3.2	20 31.7	63 100.0
	編入4年	5 83.3	-	1 16.7	6 100.0
	大学院	国際保健 助産学	13 81.3	-	3 18.8
看護学		27 87.1	-	4 12.9	31 100.0
合計		258 72.7	14 3.9	83 23.4	355 100.0

本調査では、各選択肢に対してその理由も記入を求めた。その結果、入学して良かったと思う理由として、教員に関わる記述（「先生が充実している」「看護に対する色々な情報を与えてくれる、先生方がとても親切」「授業、先生とのかかわりが良い」「先生と近い」「実習と授業も先生が学生のことをすごく考えてくれていて、質問などしてもよく面倒見てくださるから」「先生方と学生の距離感が近いと感じるから」「たくさん刺激をもらえた」「先生が豪華、とても良い教育を受けていると思う」「先生が熱心で勉強が楽しい」「教員が専門分野に特化している」「教員の指導がいいこと、授業のレベルが高い（実践が身につくものであること）」）が最も多かった。次いで実習に関する記述（「大変だけど、実習に行く回数が多くてよかった」「授業内容や実習でのフォローが充実していると思う」「実習のカリキュラムがきちんと整っているから」「実習と授業も先生が学生のことをすごく考えてくれていて、質問などしてもよく面倒見てくださるから」「実習が

充実している」)が多かった。その他、奨学金が充実している、良い友人に恵まれた、勉強が楽しい、整った環境の中で勉強できるから、など本学で勉学することに自負と充実感が感じられる。一方、本学に入学して良かったとはいえない理由として、「保健師の資格を全員取ることができないため」「大学の連絡がいつもおそい。学生のニーズを把握していない」「大学のサポートが悪い」「志望校ではない」「規模が小さい、他の学生とも関わりたい」「学士編入制度がないため、学士が少ない」「カリキュラムがよくないと思う」など1名ずつであるが、本学への不満が回答にみられた。どちらともいえないに回答した人たちには、学校が自宅から遠いこと、学費が高いこと、勉強が大変なこと（課題や実習など）、自分の問題として看護師になることへの迷いなどがあげられていた。

3) 勉強の継続についての意向 (質問13のC)

本学で勉強を続けることについては、「このまま勉学を続ける」と答えた学生が339名(95.5%)と大多数を占めた。この傾向は、前回の調査とほぼ一致するものであった。「他の看護系大学へ転学したい」「看護以外の専攻を変えたい」との回答も僅かであるがあるので、丁寧な学生サポートが必要であろう。また、大学院では、その他と回答もとくに看護学専攻に1割みられた。(表7-3)。

表7-3 本学での勉学の継続意向

		このまま勉学を続ける	他の看護系大学へ転学したい	看護系以外の専攻に変更したい	その他	合計
学部	1年	96 98.0	-	1 1.0	1 1.0	98 100.0
	2年	71 94.7	1 1.3	1 1.3	2 2.7	75 100.0
	3年	61 96.8	-	-	2 3.2	63 100.0
	編入3年	4 100.0	-	-	-	4 100.0
	4年	61 96.8	-	-	2 3.2	63 100.0
	編入4年	5 83.3	-	1 16.7	-	6 100.0
大学院	国際保健助産学	14 87.5	-	1 6.3	1 6.3	16 100.0
	看護学	27 90.0	-	-	3 10.0	30 100.0
	合計	339 95.5	1 0.3	4 1.1	11 3.1	355 100.0

4) 学生生活の充実度 (質問13のD)

大学生生活の充実度は、「やや充実している」と回答した学生が182名(51.0%)で最も多かった。次いで「とても充実している」118名(33.1%)であり、あわせると84.1%が多かれ少なかれ充実していると回答していた。一方、「充実していない」「全く充実していない」

い」と回答した学生はあわせて15名(4.2%)いた(表7-4)。前回調査よりも充実している者の割合(7割強)は増えたことがわかる。大学院は学部よりも充実度が高い結果になっている。

表7-4 学生生活の充実度

		とても充実している	やや充実している	どちらともいえない	あまり充実していない	まったく充実していない	合計
学部	1年	35 35.7	51 52.0	7 7.1	4 4.1	1 1.0	98 100.0
	2年	16 21.3	41 54.7	14 18.7	3 4.0	1 1.3	75 100.0
	3年	19 29.7	35 54.7	7 10.9	2 3.1	1 1.6	64 100.0
	編入3年	2 50.0	2 50.0	-	-	-	4 100.0
	4年	23 36.5	29 46.0	9 14.3	2 3.2	-	63 100.0
	編入4年	4 66.7	2 33.3	-	-	-	6 100.0
	大学院	国際保健 助産学	5 31.3	7 43.8	4 25.0	-	-
看護学		14 45.2	15 48.4	1 3.2	1 3.2	-	31 100.0
合計		118 33.1	182 51.0	42 11.8	12 3.4	3 0.8	357 100.0

5) 大学生活の中で大切に思っていること(2つ以内選択)(質問13のE)

「専門的知識や技術を習得する」が最も多く272名(76.2%)を占めた。次いで、「交友関係」191名(53.3%)、「教養を深める」139名(38.9%)の順であった(表7-5)。この傾向は編入学生(3, 4年生)では、「教養を深める」「専門的知識や技術を習得する」の順に変わる。また大学院では、「専門的知識や技術を習得する」「教養を深める」の順になる。入学目的の違いがここに反映されている。

表7-5 大学生活のなかで大切だと思っていること

		専門的知識 や技術を習 得する	教養を 深める	クラブ・サー クル等で活 躍する	自由を満喫 する	交友関係	その他	合計
学部	1年	82 83.7	27 27.6	3 3.1	19 19.4	62 63.3	1 1.0	98 100.0
	2年	58 77.3	28 37.3	7 9.3	14 18.7	33 44.0	1 1.3	75 100.0
	3年	43 67.2	24 37.5	6 9.4	19 29.7	35 54.7	2 3.1	64 100.0
	編入3年	3 75.0	3 75.0	-	2 50.0	-	-	4 100.0
	4年	45 71.4	23 36.5	7 11.1	14 22.2	40 63.5	-	63 100.0
	編入4年	4 66.7	5 83.3	-	3 50.0	2 33.3	-	6 100.0
	大学院	国際保健 助産学	14 87.5	8 50.0	-	-	8 50.0	-
看護学		23 74.2	21 67.7	1 3.2	1 3.2	11 35.5	1 3.2	31 100.0
合計		272 76.2	139 38.9	24 6.7	72 20.2	191 53.5	5 1.4	357 100.0

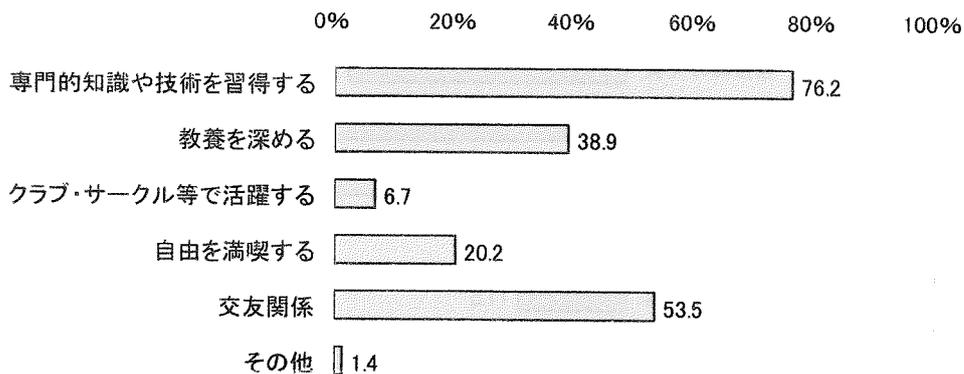


図7-2 大学生活の中で大切に思っていること

6) 大学に対する期待や要望 (3つ以内選択) (質問13のF、G)

「福利厚生施設・設備の改善」が最も多く141名 (39.7%) であり、次いで「授業内容の改善」「カリキュラムの改善」「教授陣の充実」の順に多かったが、これらの差は10ポイント以内であり、突出している項目があったわけではない。前回の調査では、「カリキュラムの改善」が5割を超えていた。大学には生協があり、購買部や食堂が整備されていると考えていたが、このような要望や期待があるのはいかなる意味であろうか。

表7-6 大学に対する期待や希望

		教授陣の充実	カリキュラムの改善	授業内容の改善	講演会、教養講座等課外教育プログラムの充実	正課関連施設・設備の改善	福利厚生施設・設備の改善	課外活動施設・設備の改善	奨学金・貸付金・融資資金等の充実	学生の就職指導の充実	その他	特になし	合計
		学部	1年	25 25.5	24 24.5	30 30.6	8 8.2	8 8.2	40 40.8	8 8.2	22 22.4	12 12.2	8 8.2
	2年	18 24.3	30 40.5	30 40.5	7 9.5	2 2.7	29 39.2	9 12.2	11 14.9	7 9.5	6 8.1	9 12.2	74 100.0
	3年	25 39.7	20 31.7	26 41.3	6 9.5	9 14.3	28 44.4	6 9.5	9 14.3	8 12.7	4 6.3	3 4.8	63 100.0
	編入3年	2 50.0	1 25.0	2 50.0	1 25.0	3 75.0	1 25.0	-	-	1 25.0	1 25.0	-	4 100.0
	4年	16 25.4	23 36.5	26 41.3	1 1.6	9 14.3	35 55.6	2 3.2	10 15.9	18 28.6	5 7.9	4 6.3	63 100.0
	編入4年	5 83.3	4 66.7	3 50.0	-	-	-	-	2 33.3	-	1 16.7	-	6 100.0
大学院	国際保健助産学	4 25.0	3 18.8	7 43.8	-	5 31.3	5 31.3	-	4 25.0	6 37.5	2 12.5	-	16 100.0
	看護学	11 35.5	9 29.0	7 22.6	6 19.4	5 16.1	3 9.7	-	13 41.9	-	5 16.1	5 16.1	31 100.0
合計		106 29.9	114 32.1	131 36.9	29 8.2	41 11.5	141 39.7	25 7.0	71 20.0	52 14.6	32 9.0	36 10.1	355 100.0

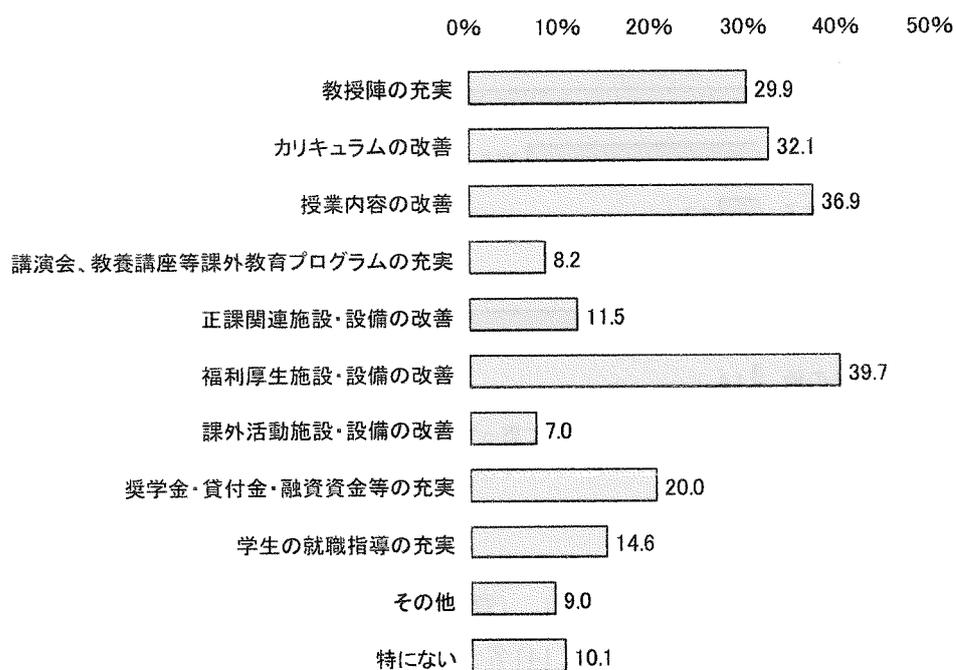


図7-3 大学に対する期待や要望

8. 卒業後の進路について

1) 卒業後の進路希望（質問14）

卒業後の進路希望は、「病院等に就職」と答えた学生が294名（83.1%）と最も多く、他を大きく離れた回答であった。（表8-1）。

学年別にみても、この回答傾向は同じであった。ただし、3年生においてのみ、「まだ決めていない・分からない」と回答した者の割合が、8名（12.5%）で多かった。また、大学院では、看護学専攻において、「まだ決めていない・分からない」の割合が合わせて2割近くいたことは留意する必要がある。

表8-1 卒業後の進路希望について

		病院等に 就職	企業・自治体 に就職	大学院に 進学	他大学に 進学	助産師学校 に進学	教育機関(養 護教員などを 含む)に就職	保健所・保健 センターに 就職	外国に留学	専業主婦 (夫)	まだ決めてい ない・ わからない	その他	合計	
学部	1年	80 82.5	-	6 6.2	1 1.0	2 2.1	1 1.0	-	1 1.0	-	6 6.2	-	97 100.0	
	2年	69 94.5	-	1 1.4	-	-	-	-	-	1 1.4	2 2.7	-	73 100.0	
	3年	51 79.7	-	-	-	2 3.1	-	3 4.7	-	-	8 12.5	-	64 100.0	
	編入3年	2 50.0	-	1 25.0	-	-	-	1 25.0	-	-	-	-	4 100.0	
	4年	60 95.2	-	2 3.2	-	-	-	-	-	1 1.6	-	-	63 100.0	
	編入4年	4 66.7	-	1 16.7	-	-	-	-	-	-	1 16.7	-	6 100.0	
	大学院	国際保健 助産学	15 93.8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1 6.3	16 100.0
		看護学	13 41.9	-	1 3.2	-	-	5 16.1	-	-	-	6 19.4	6 19.4	31 100.0
合計		294 83.1	-	12 3.4	1 0.3	4 1.1	6 1.7	4 1.1	1 0.3	2 0.6	23 6.5	7 2.0	354 100.0	

2) 就職したい病院（質問14-1）

就職したい病院は、「日赤系の病院」が242名（82.3%）と最も高い割合を占め、2000年の調査時で56.3%、2006年では72.6%であり、増加傾向にある。特にまだよく分かっていない1年生においてその傾向が強いのは知識もなく首肯できるといえる。4年生になると最も低く80%になってはいるが、12年前に比較して大幅な増加になっているのは、やはり不景気になり奨学金貸与の学生が多いためであると推察できる。

表8-2 就職したい病院

		日赤系の 病院	国公立の 病院	大学病院	その他の 病院	診療所	その他	合計
学部	1年	74 92.5	1 1.3	2 2.5	1 1.3	-	2 2.5	80 100.0
	2年	58 81.2	-	9 13.0	1 1.4	1	2 2.9	69 100.0
	3年	44 86.3	1 2.0	3 5.9	1 2.0	-	2 3.9	51 100.0
	編入3年	1 50.0	-	-	-	-	1 50.0	2 100.0
	4年	48 80.0	3 5.0	3 5.0	6 10.0	-	-	60 100.0
	編入4年	1 25.0	1 25.0	-	1 25.0	-	1 25.0	4 100.0
	大学院	国際保健 助産学	10 66.7	1 6.7	2 13.3	1 6.7	-	1 6.7
	看護学	8 61.5	-	1 7.7	4 30.8	-	-	13 100.0
合計		242 82.3	7 2.4	20 6.8	15 5.1	1 0.3	9 3.1	294 100.0

3) 大学院進学 (質問14-3)

進学したい大学となると、日赤が8割をこえているが、この数は僅か9名に過ぎない。そのうちの5名が1年生であるから、4年後の進学を予測するには脆弱といえる。全体でも11名であるので、いかに大学院に魅力を感じていないかがわかる。また、3年生では進学希望者は皆無である。このことからしても、とりわけ本学の大学院改革に乗り出さないと、予備軍である学生の取り込みは悲観的であると言えよう。

表8-3 進学したい大学院

		本学	本学以外	合計
学部	1年	5 100.0	-	5 100.0
	2年	1 100.0	-	1 100.0
	3年	-	-	-
	編入3年	-	1 100.0	1 100.0
	4年	2 100.0	-	2 100.0
	編入4年	-	1 100.0	1 100.0
	大学院	国際保健 助産学	-	-
	看護学	1 100.0	-	1 100.0
合計		9 81.8	2 18.2	11 100.0

附 録

(調査票)

= 学生の生活実態調査 =

2011.9

調査の目的

この調査は、皆さんの現在の生活の実態を知り、大学生活をよりよいものにするために行うものです。本調査の目的以外に調査結果を使用することはありませんし、個人が特定されることはありませんので、ありのままをご回答ください。また、調査結果については、後日お知らせいたします。

回答には30分程度要しますが、ぜひともご協力をお願いします。

日本赤十字看護大学 学生生活委員会

質問1. 現在、住んでいる住居の種類についてお聞きします。下記の項目の中から一つ選んで○をつけてください。

- | | | |
|---------------|---|----------|
| 1. 実家 | → | (質問2)へ |
| 2. 実家以外 | | |
| 1) 下宿 | → | (質問1-1)へ |
| 2) アパート・マンション | → | (質問1-2)へ |
| 3) さつき寮 | | |
| 4) 自宅(結婚などして) | | |
| 3. その他(具体的に |) | → (質問2)へ |

質問1-1. 【質問1で2の1)下宿】と回答した学生にお聞きします。

あなたの部屋の居住状態はどの様になっていますか。

下記の、A)～E)の各項目について、それぞれあてはまるものを一つ選んで番号に○をつけてください。

A) 間取りについて

- | | | | | |
|---------|-------|-------|-------------|---|
| 1. 4.5畳 | 2. 6畳 | 3. 8畳 | 4. その他(具体的に |) |
|---------|-------|-------|-------------|---|

B) お風呂の有無

- | | | |
|-----------|-------------|----------|
| 1. 個人用がある | 2. 共同のものがある | 3. 風呂は無い |
|-----------|-------------|----------|

C) トイレについて

- | | |
|-----------|-------------|
| 1. 個人用がある | 2. 共同のものがある |
|-----------|-------------|

D) 台所の有無

- | | | |
|-----------|-------------|----------|
| 1. 個人用がある | 2. 共同のものがある | 3. 台所は無い |
|-----------|-------------|----------|

E) 食事について

- | | | |
|-------------|---------|------------|
| 1. 2食付き | 2. 1食付き | 3. 食事は付かない |
| 4. その他(具体的に | |) |

質問1-2. 【質問1で2の2) アパート・マンション】に回答した学生にお聞きします。

居住状態はどの様になっていますか。

下記のA)～E)の各項目について、それぞれあてはまるものを一つ選んで○をつけてください。

A) 間取りについて

- | | | |
|-----------|-------------|------------|
| 1. ワンルーム | 2. 1K～1DK | 3. 2K～2LDK |
| 4. 3LDK以上 | 5. その他(具体的に |) |

1Kとはキッチン付きワンルームのこと

B) お風呂の有無

- | | | |
|-----------|-------------|----------|
| 1. 個人用がある | 2. 共同のものがある | 3. 風呂は無い |
|-----------|-------------|----------|

C) トイレについて

- | | |
|-----------|-------------|
| 1. 個人用がある | 2. 共同のものがある |
|-----------|-------------|

D) 台所の有無

- | | | |
|-----------|-------------|----------|
| 1. 個人用がある | 2. 共同のものがある | 3. 台所は無い |
|-----------|-------------|----------|

E) 同居人について

- | | | |
|-------|--------|--------|
| 1. いる | 2. いない | 3. その他 |
|-------|--------|--------|

【全員の方へ】

質問2. あなたは、現在の住居について満足していますか。下記の中からあてはまるものを一つ選んで○をつけてください。

- | | |
|--------------|------------|
| 1. 満足している | → (質問3)へ |
| 2. 満足していない | → (質問2-1)へ |
| 3. どちらともいえない | → (質問3)へ |

質問2-1. 【質問2で2. 満足していない】を選択した方にお聞きします。

満足していない理由について、該当する項目全てに○をつけてください。

- | | | |
|--------------------|------------|-------|
| 1. 学校から遠い | 2. 築年数が古い | 3. 狭い |
| 4. 家賃が高い | 5. 周囲が騒がしい | |
| 6. 安全面で不安がある (具体的に | |) |
| 7. その他 (具体的に | |) |



次のページへ

質問3. 現在のあなたの1ヶ月の平均的な収入などについてお聞きします。なお、以下の項目は全て学校納付金を除く経済生活とします。各項目について、それぞれあてはまるもの一つを選んで○をつけてください。

A) 家族からの援助額（生活費として）

- | | | |
|----------------|----------------|----------------|
| 1. 3万円未満 | 2. 3万円～6万円未満 | 3. 6万円～9万円未満 |
| 4. 9万円～12万円未満 | 5. 12万円～15万円未満 | 6. 15万円～18万円未満 |
| 7. 18万円～21万円未満 | 8. 21万円～24万円未満 | 9. 24万円～27万円未満 |
| 10. 27万円～30万円 | 11. 30万円以上 | |

B) 現在受けている奨学金の種類

- | |
|-------------------------|
| 1. 日本赤十字社医療センター |
| 2. 日本赤十字社都道府県支部および赤十字病院 |
| 3. 日本学生支援会（日本育英会） |
| 4. その他（具体的に _____） |
| 5. 受けていない |

C) アルバイトによる収入

- | |
|-----------------|
| 1. ある → 質問 D) へ |
| 2. ない |

D) 授業期間中の1ヶ月のアルバイト収入額はいくらですか。一つだけ選んで○をつけてください。

- | | | |
|----------------|--------------|--------------|
| 1. 1万円未満 | 2. 1万円～2万円未満 | 3. 2万円～3万円未満 |
| 4. 3万円～4万円未満 | 5. 4万円～5万円未満 | 6. 5万円～6万円未満 |
| 7. 6万円～7万円未満 | 8. 7万円～8万円未満 | 9. 8万円～9万円未満 |
| 10. 9万円～10万円未満 | 11. 10万円以上 | |

F) 職場からの収入

- | |
|-------|
| 1. ある |
| 2. ない |

質問4. 現在のあなたの1ヶ月の平均的な支出（ご結婚されている方はご自分だけとします）などについてお聞きします。なお、以下の項目は全て学校納付金を除く経済生活とします。各項目について、それぞれあてはまるもの一つを選んで○をつけてください。

A) 食費（自宅通学者は外食費）

- | | | |
|--------------|--------------|--------------|
| 1. 1万円未満 | 2. 1万円～2万円未満 | 3. 2万円～3万円未満 |
| 4. 3万円～4万円未満 | 5. 4万円～5万円未満 | 6. 5万円以上 |

B) 住居費（家賃、光熱水費を含む）**<自宅通学者は除く>**

- | | | |
|--------------|---------------|--------------|
| 1. 3万円未満 | 2. 3万円～5万円未満 | 3. 5万円～7万円未満 |
| 4. 7万円～9万円未満 | 5. 9万円～11万円未満 | 6. 11万円以上 |

C) 勉学費 (学納金を除いた書籍、文具、コピー等に要する経費)

- | | | |
|----------------|--------------|----------------|
| 1. 5千円未満 | 2. 5千円～1万円未満 | 3. 1万円～1.5万円未満 |
| 4. 1.5万円～2万円未満 | 5. 2万円以上 | |

D) 通学費

- | | | |
|----------------|----------------|--------------|
| 1. 0円 | 2. 1～5千円未満 | 3. 5千円～1万円未満 |
| 4. 1万円～1.5万円未満 | 5. 1.5万円～2万円未満 | 6. 2万円以上 |

E) 教養・娯楽 (CD・DVD・本・コンサートなど)

- | | | |
|----------------|--------------|----------------|
| 1. 5千円未満 | 2. 5千円～1万円未満 | 3. 1万円～1.5万円未満 |
| 4. 1.5万円～2万円未満 | 5. 2万円以上 | |

F) 嗜好品費 (煙草・酒・レジャーなど)

- | | | |
|----------------|--------------|----------------|
| 1. 5千円未満 | 2. 5千円～1万円未満 | 3. 1万円～1.5万円未満 |
| 4. 1.5万円～2万円未満 | 5. 2万円以上 | |

G) 習い事の費用 (英会話・ダンス・茶道・華道など)

- | | | |
|----------------|--------------|----------------|
| 1. 5千円未満 | 2. 5千円～1万円未満 | 3. 1万円～1.5万円未満 |
| 4. 1.5万円～2万円未満 | 5. 2万円以上 | |

H) 通信費 (携帯電話・インターネット契約、接続料等を含む)

- | | | |
|-----------------|-----------------|----------------|
| 1. 1千円未満 | 2. 1千円～5千円未満 | 3. 5千円～1万円未満 |
| 4. 1万円～1.5万円未満 | 5. 1.5万円～2万円未満 | 6. 2万円～2.5万円未満 |
| 7. 2.5万円～3万円未満 | 8. 3万円～3.5万円未満 | 9. 3.5万円～4万円未満 |
| 10. 4万円～4.5万円未満 | 11. 4.5万円～5万円未満 | 12. 5万円以上 |

I) 総支出額 (A)～H) を加算したもの。学校納付金を除く。

- | | | |
|-----------------|----------------|----------------|
| 1. ～3万円未満 | 2. 3万円～6万円未満 | 3. 6万円～9万円未満 |
| 4. 9万円～12万円未満 | 5. 12万円～15万円未満 | 6. 15万円～18万円未満 |
| 7. 18万円～21万円未満 | 8. 21万円～24万円未満 | 9. 24万円～27万円未満 |
| 10. 27万円～30万円未満 | 11. 30万円以上～ | |

質問5. アルバイトの状況について、質問3のC)で「ある」と回答した学生にお聞きします。
下記のA)～G)の各項目について、それぞれお答えください。

A) 入学以来、アルバイトをどのようにしていましたか。一つだけ選んで○をつけてください。

- | | | |
|----------------|-------------------|------------|
| 1. 長期休暇のみ | 2. 授業期間中ときどき | 3. 授業期間いつも |
| 4. 授業、実習期間いつも | 5. 長期休暇中及び授業期間いつも | |
| 6. その他 (具体的に) | | |

B) アルバイトの目的はなんですか。該当する項目全てに○をつけてください。

- | | |
|---------------------|---------------|
| 1. 学費及び勉学費を得る | 2. 生活費を得る |
| 3. クラブ活動・習い事等の費用を得る | 4. 娯楽・嗜好品費を得る |
| 5. 高額商品を購入する | 6. 社会勉強 |
| 7. 友人を作る | 8. 時間が空いているため |
| 9. 通信費 | |
| 10. その他（具体的に | ） |

【C)～F)は、授業期間中にアルバイトをしたことのある学生への質問です。授業期間中にはアルバイトをしたことがない学生は、G)に進んでください。】

C) 授業期間中の1週間の平均アルバイト日数はどのくらいですか。一つだけ選んで○をつけてください。

- | | | | |
|-------|---------|---------|---------|
| 1. 1日 | 2. 2～3日 | 3. 4～5日 | 4. 6～7日 |
|-------|---------|---------|---------|

D) 授業期間中の1回の平均アルバイト時間はどのくらいですか。一つだけ選んで○をつけてください。

- | | | |
|----------------|----------------|----------------|
| 1. 2時間未満 | 2. 2時間以上～3時間未満 | 3. 3時間以上～4時間未満 |
| 4. 4時間以上～5時間未満 | 5. 5時間以上～6時間未満 | 6. 6時間以上 |
| 7. その他（ | | ） |

E) 授業期間中の1時間あたりの平均アルバイト賃金はどのくらいですか。一つだけ選んで○をつけてください。

- | | | |
|-----------------|-----------------|-----------------|
| 1. ～ 799円 | 2. 800～ 999円 | 3. 1,000～1,199円 |
| 4. 1,200～1,399円 | 5. 1,400～1,599円 | 6. 1,600～1,799円 |
| 7. 1,800～1,999円 | 8. 2,000円～ | [具体的に 円] |

F) 授業期間中のアルバイトについて、該当する項目全てに○をつけてください。

- | | | |
|------------------------|---------|--------------|
| 1. 家庭教師・塾講師 | 2. 事務職種 | 3. 販売業（レジなど） |
| 4. 接客業（ウエイター・ウエイトレスなど） | | |
| 5. 医療職（具体的に | | ） |
| 6. その他（具体的に | | ） |

【G)は、長期休暇中にアルバイトをしたことのある学生への質問です。長期休暇中にはアルバイトをしたことがない学生は、質問6に進んでください。】

G) 長期休暇中のアルバイトについて、該当する項目全てに○をつけてください。

- | | | |
|------------------------|---------|--------------|
| 1. 家庭教師・塾講師 | 2. 事務職種 | 3. 販売業（レジなど） |
| 4. 接客業（ウエイター・ウエイトレスなど） | | |
| 5. 医療職（具体的に | | ） |
| 6. その他（具体的に | | ） |

【全員の学生にお聞きします。】

質問6. あなたは、現在、課外活動（学内外）に参加していますか。（○はひとつ）

1. 加入し、活動している	}	→	(質問6-1)へ
2. 加入のみで、活動していない			
3. 以前加入していたがやめた			
4. 最初から加入していない		→	(質問6-2)へ

質問6-1. 「質問6」で1～3と回答した学生にお聞きします。

課外活動について下記の＜A～C＞の各項目についてそれぞれ回答してください。

A) 加入している（していた）学内のサークル・同好会名に○をつけてください。

1. 音楽サークル
2. 手話サークル はんず's
3. 茶道部
4. NACEF
5. 災害救護ボランティアサークル SKV
6. EFC ボランティアサークル
7. Hinaharap
8. Cross Ring Circulation (CRC)
9. 総合運動サークル
10. 日赤硬式テニス部
11. 日赤ダンスサークル ROUGE
12. フットサルサークル
13. 総合趣味サークル
14. HEART (HIV Peer Education Activity Redcross Team)
15. 世界テーブルゲーム研究会

B) 加入している（していた）学外のサークル・同好会・ボランティアの活動内容について、該当する項目全てに○をつけてください。

1. スポーツ系（具体的に：)
2. 文化系（具体的に：)
3. 社会への貢献（例：手話ボランティア、被災地への貢献、学童へのサポート） （具体的に：)
4. その他（具体的に：)

C) 課外活動に参加した目的は何ですか。該当する項目全てに○をつけてください。

1. 友人を得るため	2. 知識・教養・技術等を身につけるため
3. 人格形成のため	4. 興味・関心があったから
5. 楽しむため	6. 健康増進のため
7. その他（具体的に)	

質問6-2. 「質問6で4. 最初から加入していない」と回答した学生にお聞きします。

課外活動に参加したことのない、主な理由を一つ選んで○をつけてください。

1. 課外活動に興味がない	2. 興味ある課外活動がない
3. 学業と両立しない	4. アルバイトがあるから
5. 通学時間が長いから	
6. その他 ()	

質問6-3. 【質問6で3. 以前加入していたがやめた】と回答した学生にお聞きします。
課外活動を途中でやめた主な理由を一つ選んで○をつけてください。

- | | |
|---------------------------|---------------|
| 1. 課外活動に興味がなくなった | 4. アルバイトがあるから |
| 2. 課外活動の方針への不満や人間関係上のトラブル | |
| 3. 学業と両立しない | |
| 5. 通学時間が長いから | |
| 6. その他 () | |

【全員の学生にお聞きします。】

質問6-4. 以下のA)～C)についてそれぞれお答えください。

A) 本年度の夏期休暇の主な行動について、該当する項目全てに○をつけてください。

- | | | |
|----------------|----------|---------------|
| 1. 国内旅行 | 2. 海外旅行 | 3. 自動車等の免許の取得 |
| 4. 合宿 | 5. 研究や勉強 | 6. アルバイト |
| 7. ボランティア活動 | | |
| 8. その他 (具体的に) | | |

B) 大学入学以来、技術や資格等の獲得のために学外の学校に通ったことがありますか。
(○は一つ)

- | |
|-----------------|
| 1. ある → (B-1) へ |
| 2. ない → (C) へ |

B-1) 【B】で1. ある】と回答した学生にお聞きします。

学外の学校でどのような講座を受講しましたか。下記の講座で該当する項目全てに○をつけてください。

- | | | |
|---------------------|---------------------|-------|
| 1. 語学 | 2. スポーツ・エアロビクス・ダンス等 | |
| 3. 各種資格の予備校 (資格名:) | | |
| 4. 茶道・華道 | 5. 料理 | 6. 音楽 |
| 7. その他 (具体的に) | | |

【全員の学生にお聞きします。】

C) 現在大学で主催している課外教育プログラムも含めて、今後どのようなプログラムを希望しますか。最も希望するものを一つ選んで○をつけてください。

- | | |
|----------------|----------------|
| 1. 教養講座等の講演会 | 2. 映画鑑賞 |
| 3. 音楽鑑賞 | 4. ハイキング・キャンプ等 |
| 5. スポーツ講習会等 | 6. 海外研修 |
| 7. 救急法の講習会 | |
| 8. その他 (具体的に) | |

質問7. 学期中の平日（月～金曜日）1日の生活時間についてお聞きします。

A)～E)の項目毎に、それぞれあてはまるものを一つ選んで○をつけてください。

A) 睡眠時間は

A-1) 実習がない期間

- | | | |
|---------------|---------------|---------------|
| 1. 3時間未満 | 2. 3時間以上4時間未満 | 3. 4時間以上5時間未満 |
| 4. 5時間以上6時間未満 | 5. 6時間以上7時間未満 | |
| 6. 7時間以上8時間未満 | 7. 8時間以上 | |

A-2) 実習期間中

- | | | |
|----------------|----------------|----------------|
| 1. 3時間未満 | 2. 3時間以上～4時間未満 | 3. 4時間以上～5時間未満 |
| 4. 5時間以上～6時間未満 | 5. 6時間以上～7時間未満 | |
| 6. 7時間以上～8時間未満 | 7. 8時間以上 | |

B) 学習時間は

B-1) 実習がない期間

- | | | |
|----------------|----------------|----------------|
| 1. 1時間未満 | 2. 1時間以上～2時間未満 | 3. 2時間以上～3時間未満 |
| 4. 3時間以上～4時間未満 | 5. 4時間以上 | |

B-2) 実習期間中

- | | | |
|----------------|----------------|----------------|
| 1. 1時間未満 | 2. 1時間以上～2時間未満 | 3. 2時間以上～3時間未満 |
| 4. 3時間以上～4時間未満 | 5. 4時間以上 | |

C) 自由時間（TV・音楽・電話等）は

- | | | |
|----------------|----------------|----------------|
| 1. 1時間未満 | 2. 1時間以上～2時間未満 | 3. 2時間以上～3時間未満 |
| 4. 3時間以上～4時間未満 | 5. 4時間以上 | |

D) 通学時間（片道）は

- | | | |
|-----------------|----------------|----------------|
| 1. 30分未満 | 2. 30分以上～60分未満 | 3. 60分以上～90分未満 |
| 4. 90分以上～120分未満 | 5. 120分以上 | |

E) 課外活動時間は

- | | | |
|----------------|----------------|----------------|
| 1. 1時間未満 | 2. 1時間以上～2時間未満 | 3. 2時間以上～3時間未満 |
| 4. 3時間以上～4時間未満 | 5. 4時間以上 | |

質問8. 健康状態についてお聞きします。下記の項目から最もあてはまるものを一つ選んで○をつけてください。

- | | |
|-----------------------------|--|
| 1. いつも好調で、異常を感じない | |
| 2. 1年に1～2回風邪をひく程度 | |
| 3. 3ヶ月に1～2回は病気によって欠席することがある | |
| 4. 1ヶ月に1～2回は病気によって欠席することがある | |
| 5. 常に疲労感や不調を感じている | |
| 6. 治療している病気がある（具体的に) | |
| 7. その他（具体的に) | |

質問9. 食生活についてお聞きします。

A) 朝食は食べていますか。

1. ほとんど毎日食べている。 2. ときどき食べている。 3. ほとんど食べていない。

B) 昼食は食べていますか。

1. ほとんど毎日食べている。 2. ときどき食べている。 3. ほとんど食べていない。

C) 夕食は食べていますか。

1. ほとんど毎日食べている。 2. ときどき食べている。 3. ほとんど食べていない。

質問10. 入学してから今までに、悩みや不安はありましたか。

- | |
|--------------------------|
| 1. あった (ある) → (質問10-1) へ |
| 2. なかった (ない) → (質問11) へ |

質問10-1. 【質問10で1. あった (ある)】と回答した学生にお聞きします。

A) どんな悩みや不安がありましたか (ありますか)。下記で該当する項目全てに○をしてください。

- | | |
|------------------|----------------|
| 1. 看護師・助産師としての適性 | 2. 学業に関する能力的問題 |
| 3. 健康について | 4. 人生観について |
| 5. 将来の進路 | 6. 友人との人間関係 |
| 7. 異性問題 | 8. 家族や家庭内のこと |
| 9. 経済的な問題 | 10. 課外活動 |
| 11. その他 (具体的に) | |

B) その悩みや不安を誰に相談しましたか。下記の項目のなかで最もあてはまるものを一つ選んで○をつけてください。

- | | | |
|----------------|----------|-------|
| 1. 誰にも相談しない | 2. 友人 | 3. 家族 |
| 4. 大学の教職員 | 5. 恩師や先輩 | |
| 6. カウンセラー | | |
| 7. その他 (具体的に) | | |

【全員の学生にお聞きします。】

質問11. 大学の学生相談室を、あなたは利用したことがありますか。

- | | |
|---------|------------|
| 1. 利用した | 2. 利用していない |
|---------|------------|

質問12. 今後、学生相談室をあなたは利用したいと思いますか。あてはまるもの1つを選んで○をつけてください。

- | | |
|---------------------------|--|
| 1. 利用したい | |
| 2. 利用したいがちゅうちょする (その理由:) | |
| 3. 利用したくない | |
| 4. わからない | |

質問 13. 次に大学生活についてお聞きします。

A) 本学を選んだ理由は何ですか。該当する項目全てに○をつけてください。

- | | |
|-----------------------|-------------------|
| 1. 大学の特色（教育内容や専攻分野など） | 2. 奨学金制度が充実しているから |
| 3. 就職や将来のことを考えて | 4. 大学の立地条件が良いため |
| 5. 周囲のアドバイス | |
| 6. その他（具体的に | ） |

B) 本学に入学してよかったと思いますか。最もあてはまるもの一つに○をつけてください。

- | | |
|---------------------------|---|
| 1. よかったと思う
（具体的な理由： | ） |
| 2. よかったとはいえない
（具体的な理由： | ） |
| 3. どちらともいえない
（具体的な理由： | ） |

C) 本学での勉学を続けることについてどのように考えていますか。最もあてはまるものを一つ選んで○をつけてください。

- | | |
|-------------------|------------------|
| 1. このまま勉学を続ける | 2. 他の看護系大学へ転学したい |
| 3. 看護系以外の専攻に変更したい | 4. その他 |

D) あなたの学生生活は充実していますか。最もあてはまるものを1つ選んで○をつけてください。

- | | | |
|---------------|----------------|--------------|
| 1. とても充実している | 2. やや充実している | 3. どちらともいえない |
| 4. あまり充実していない | 5. まったく充実していない | |

E) 大学生活の中であなたが大切だと思っていることは何ですか。

主なもの2つ以内で選んで○をつけてください。

- | | |
|-------------------|------------|
| 1. 専門的知識や技術を習得する | 2. 教養を深める |
| 3. クラブ・サークル等で活躍する | 4. 自由を満喫する |
| 5. 交友関係 | |
| 6. その他（具体的に | ） |

F) 大学に対して特に期待や要望することについて、下記の項目の中から**3つ以内**で選んで○をつけてください。

- | | |
|---------------------------------|---|
| 1. 教授陣の充実 | |
| 2. カリキュラムの改善 | |
| 3. 授業内容の改善 | |
| 4. 講演会、教養講座等課外教育プログラムの充実 | |
| 5. 正課関連施設・設備（例えば、教室や図書館など）の改善 | |
| 6. 福利厚生施設・設備（例えば、食堂やロッカー室など）の改善 | |
| 7. 課外活動施設・設備（例えば、部室や自治会室など）の改善 | |
| 8. 奨学金・貸付金・融資資金等の充実 | |
| 9. 学生の就職指導の充実 | |
| 10. その他（具体的に | ） |
| 11. 特にない | |

G) あなたが上でとりあげた項目の具体的内容について教えてください。1つの項目についても結構です。

質問 14. 卒業後の進路希望についてお聞きします。以下の項目の中で最もあてはまるものを1つだけ選んで○をつけてください。

1. 病院等に就職 → (質問 14-1) へ
 2. 企業・自治体に就職
 3. 大学院に進学 → (質問 14-2) へ
 4. 他大学に進学
 5. 助産師学校に進学
 6. 教育機関(養護教員などを含む)に就職
 7. 保健所・保健センターに就職
 8. 外国に留学
 9. 専業主婦(夫)
 10. まだ決めていない・わからない
 11. その他(具体的に)

質問 14-1. [質問 14 で 1. 病院等に就職] したいと回答した学生にお聞きします。

どのような病院に就職したいと思っていますか。以下の中から1つだけ選んで○をつけてください。

- | | |
|-----------|---------------|
| 1. 日赤系の病院 | 2. 国公立の病院 |
| 3. 大学病院 | 4. その他の病院 |
| 5. 診療所 | 6. その他(具体的に) |

質問 14-2. [質問 14 で 3. 大学院に進学] したいと回答した学生にお聞きします。

どの大学院に進学したいと思っていますか。以下の中から1つだけ選んで○をつけてください。

1. 本学
 2. 本学以外(その理由:)

最後に、あなたご自身についてお聞きします。

F 1. あなたの学年は：

1. 1年	2. 2年	3. 3年	4. 編入3年
5. 4年	6. 編入4年		
7. 大学院修士 (国際保健助産実践コース)	8. 大学院修士 (その他)		

F 2. あなたの出身地 (都道府県名) は：

1. 東京都	2. 神奈川県	3. 埼玉県
4. 千葉県	5. 茨城県	6. 群馬県
7. 栃木県	8. その他 (都道府県名)	

F 3. あなたの入試形態を教えてください。(学部生のみ)

1. A日程	2. B日程	3. センター試験利用型
4. 支部長推薦	5. 公募推薦	6. 指定校推薦

— 長時間、調査にご協力いただきましてありがとうございました —

ご記入いただきました調査票は、

**今週の金曜日までに
学務課前のレポートボックスまで提出してください。**

第5回 学生生活実態調査報告書作成メンバー

(○は編集委員長)

佐藤 眞 (教授)

○遠藤 公久 (教授)

堀井 湖浪 (講師)

宮内 清子 (講師)

西田 朋子 (講師)

第5回 学生生活実態調査報告書 2011年度

2012年3月31日 発行

編集 日本赤十字看護大学学生生活委員会

発行 日本赤十字看護大学

〒150-0012 東京都渋谷区広尾 4-1-3

電話 (03) 3409-0875

印刷 株式会社アクロス

〒101-0032 東京都千代田区岩本町 3-7-2

電話 (03) 5822-0311
